

「于是」を用いる中国語原文とその日本語訳

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|---|
| 插队的故事 (原文) | 遙かなる大地 (訳文) |
| “不顶事了，再不要瞎糟踏了钱，”他说。“我死了你就好好介打上两眼窗，”瞎老汉跟随随说，“我死了你就结婚下婆姨好好介过。”随随就急得喊：“多会儿死咧，咱俩相跟上！”有这话瞎老汉心里就满足，于是又想起那个吹手，说：“也常要给你亲大上坟哩。把我也埋在前川枣树滩里。” | 「行ってもしょうがあるめえ。これ以上銭を無駄に使うことはねえだ」と言うのだ。「わしが死んだら窯洞をちゃんとふたつ造るだ」といじさんは言う。「わしが死んだらおめえは嫁をもらって仲良く暮らすぞ」と言うのと、随随はあわてて「いつ死ぬにしても、おれたちは一心同体だ」と叫んだ。そう言われるいじさんは心が満ち足りるように感じ、あのラッパ吹きのことを思い出して「おめえの父ちゃんの墓参りをよくするぞ。わしも前の川の藁樹灘に埋めてくれ」と言う。 |
| 仲伟从家里带来块四十年代的老“罗马”，清平湾的人从没在远处观察过手表，于是全体传看一遍后，都对它倍加崇拜。 | 仲偉は家から一九四〇年代の古い腕時計「レマニア」を持ってきていた。清平湾の人はみな近くで腕時計を見たことがないので、全員がひとわり見た後、それに対する崇拜の念が倍増した。 |
| 这首歌大家都会，于是都唱： | この歌はみんなうたえるので合唱した。 |
| 轱辘把胡同9号 (原文) | 轱辘把胡同九号 (訳文) |
| 大家总觉得既有这么雅洁的屋子，更应当有个太太了，于是谈锋又转到了择偶的条件。 | こんな垢抜けた部屋を手に入れた以上、あとは奥さんと誰しも思うのだが、話の先はまたしても配偶者の条件になる。 |
| 母亲跟前，居然有了一个温柔贤淑的媳妇，不久又看见了一个孙女的诞生，于是她才相当满足地离开了人世。 | 母の前に、温和で賢明貞淑な嫁があらわれたのである。まもなく孫娘も誕生した。そこで彼女は、かなり満足してこの世を去った。 |
| 我的父亲是大家庭中的第三个儿子。他的兄弟姊妹很多，多半是不成材的，于是他们的子女的教养，就都堆在父亲的肩上。 | 父は大家族の三番目の息子だった。兄弟姉妹は多かったが、役立たずのろくでなしばかりで、兄弟姉妹の子どもを扶養することが父の肩にかかってきた。 |
| 我知道最重要的关键还是舅母，于是我又去看舅母。 | 問題なのはおばだと私にはわかっていたので、おばにも見せに行った。 |
| 这却有点出我意外，我总以为他是在单恋着！于是我便把过去一切都对母亲说了，母亲很高兴。 | これは意外なことだった。つまり片思いだと思っていたのに。そこで過去のいきさつを母にうちあげた。母は喜んで、 |
| 我们大家立刻鼓掌助兴。L大姐倚老卖老的话，害了她自己了！于是小孩们捧杯，太太们斟酒，L大姐固辞不获，大家笑成一团。 | みんなたちどころに賛成した。姉さんぶったばかりに、L姉さんはしっぺ返しを食らうことになった。そこで子どもたちが杯を捧げ、奥様が酒をそそいだが、L姉さんは固辞して取ろうとしない。 |
| 活动人形 (原文) | 応報 (訳文) |
| 看树叶象北方的槐树，但又比北方的槐叶肥大。最奇妙的是，尽管树叶密而多，它们只在树冠的顶部，象一层薄薄的华盖，于是树叶下面的网状交错的枝条、线条与空隙与天光，完全分明。 | 樹木の葉は北方的の槐のようだがそれより丸く大きい。何より変わっているのは、葉が幹のつべんに密生してレースの天蓋をなすこと。葉の下の網状に交錯した小枝が木漏れ日に映えて、くっきりとした輪郭を描いている。 |
| 一天之中，只有在这个时候她感到一种神秘的力量在酝酿，在积累，在催促她，她感到一阵紧迫的心跳，她身上开始发热，有一种强烈的要哭、要发昏、要上吊、要闹个天翻地覆的冲动在催着她，于是用一连串冷笑掩盖住了自己。 | 一日のうちこの時だけ、彼女はある不思議な力がフツフツと沸き上がって体内に満ち、自分を突き動かすのを覚える。息詰まるような心の高ぶり、どう仕様もない身の火照り、全身を投げ出して号泣したい、いっそ死んでしまいたい、狂おしく暴れだしたい、そんな衝動が荒々しく突き上げてくるのを、続けざまの冷笑で抑えこむ。 |
| 有娘的那心，便没有娘为你小子做不成的事。于是，符合条件的媒人找出来了，是吾诚出了五服的叔叔，在孟官屯方圆百里之内颇有才气，至少过年写对子写得颇有名气的倪笑之。 | 母のいぢずの執念で、やっでけんことがあるかい。果してその執念が、倪吾誠の条件にあった仲人を見つけた。その人は遠縁の叔父にあたり、孟官屯の周辺百里内ではよくした秀才として、また年越しの対句書きでは相当の名手として名を馳せた倪笑之である。 |
| 家里没有吃的，只剩下一点点白面了。于是妈给他做了面糊糊，带几分玩笑地说，好孩子，什么也没有了，只能给你打一碗糰子了。 | いつか彼がひどくお腹を空かした時、家に何もなく粉だけ少し残っていたので、ママはクズ湯をこさえて、冗談っぽくいった。良い子ね、何もないからトトロをこさえてあげたわ。 |
| 于是妈妈发现了：倪藻这孩子爱吃糰子。她这样告诉倪藻本人，这样告诉妮姨和妮姨，又告诉了邻人和客人。于是大家都知道了，倪藻本人也知道了，他爱吃糰子。 | これが倪藻の好物だと、はじめて発見したママは、倪藻にも、伯母ちやまや婆ちやまにも、近所の人やお客さまにまで吹聴した。クズ湯が倪藻の好物だとは、誰もが、倪藻本人ささえて初めて知ったのだ。 |
| 才二年级，一进学校便有一种如鱼得水的感觉。似乎他生下来就是为了来上学的。他听过不少穷孩子不能读书的故事，他深深地为这些穷孩子而悲伤。于是他觉得自己上学实在是无比的福气。 | まだ二年生なのに、水に放たれた魚のように我物顔、学校に行くために生まれてきた子ようであった。貧乏で学校に上れない子の話をいろいろ聞くと、とても可哀想になる。だから自分が学校に上れるのをとても幸せに思う。 |
| 他把披着的小棉袄随手往床上一扔。穿好西服上身，还拍了拍衣袋，想不起还有什么可以在家留宿的或者需要在家里的了。于是他看了“难得糊涂”一眼，迈过躺在地上门板的，走到院子里。 | 羽織っていた綿入れの上着をベッドの上に放り、背広を着てポケットを抑えてみる。これといって家への未練も家でやるべき事も思いつかない。そこでまた「糊塗たり得るは難し」にチラと目を走らせ、地面に横たわっている板戸を跨いで中庭へ出た。/// |
| 倪吾诚自己也说不好国语——北京话，但又不甘心说孟官屯——陶村一带的土语方言，于是他独创了一种南腔北调的“外国六”（静宜语）的话。 | 倪吾誠も国語たる北京語はうまく話せない。かといって孟官屯・陶村一带の方言にするのもシャクの種だ。そこで、北とも南ともつかぬ国籍不明の「外人なまり」（とは静宜の弁）で話をする。 |
| ///不等她说完，她又看到了妈妈的无告的咧开的嘴，这嘴的姿势把她的脸都撕碎了，于是她也以同样的姿势和动作把嘴咧开了。 | たちまちママの唇が歪んでいく。それを見た彼女の幼い心も張り裂けそう、自分も同じ唇になってペソをかく。 |
| 吃了一会儿饼糰，他又嫌不好吃了，于是妈妈又把饼糰拿过去留给自己，给他揭又焦又脆又有油又不糊的皮儿吃。/// | 少し食べて、また不味いという、その残りは自分にとっておき、ほど良く焦げてパリパリする皮の部分だけを食べさせてくれた。 |
| 总而言之没有粮食也要照样养猪和吃回锅肉。这里还有当时尚不叫“最高指示”的最高指示。于是每天午饭后满山遍野的人。 | 要するに、食糧がなくても養豚を行い回鍋肉を食べよう魂胆である。ここには当時まだ「最高指示」とは称さなかった最高指示があったので、毎日昼食が済むと辺りの野山に草刈りの人が溢れた。 |
| 而现在的正式修建的、虽然也已经变得坎坷不平的公路是依傍着山坡的。于是两块巨石似乎翩翩降落了。 | 新しい道路は、はやデコボコ道になってはいるが、山腹を巡って修築されているので、二つの巨石は天から舞降りた感がある。 |
| 所有的痛苦、热情、疯狂和傻气最终都凝聚成了石头，凝聚成了山。石无言，山也无言，于是它们守候着永恒。 | 全ての苦痛、情熱、狂気、愚鈍は凝結されて石と化し、山となった。石は無言、山また然り、ゆえに恒久不変という。 |
| ///于是妮姨承认，这枚痞子象征的意义是吉祥的，它表示长着这个痞子的人一生有口福。但是倪萍且信且疑，对自己的新痞子恨多于喜。她还认为是这乱点痞子的结果，使痞子搬了家，长了个儿。她认为痞子也好，鼻子也好，老天爷给你个什么样就是什么样，不要乱动。她的这个认识只告诉弟弟倪藻了，却没有告诉大人。 | ///すると婆ちやまはこのホクロは良いホクロで、三食食べるに困らない印だといった。倪萍は半信半疑で、やたら薬をつけた為ホクロが口許に移ってきて、しかも大きくなったのだと思う。ホクロだって鼻だって、神様が下さった物は無暗に弄らない方がいいのだ。でもこの考えは倪萍だけに話し、大人たちには黙っていた。 |
| 中午，静宜用葱花炆锅煮了一碗挂面，挂面里卧了两个鸡蛋给倪吾诚补养。挂面端给倪吾诚了，她又说：“要你鸡蛋给孩子留点。”于是吾诚吃了一个蛋，另一个给了倪萍。 | お昼、静宜は倪吾誠のために汁そばをこしらえ、栄養がつくように卵を二つも入れた。それをベッドへ運んでいって、「何なら貴方、タマゴを少し子供たちに残してやっで下さいな……」そこで倪吾誠は一つだけ食べ、もう一つを倪萍にやり、倪萍も少し食べて大半を弟に譲った。 |
| ///但后来想到自己正在病中，麦精鱼肝油对于他的病体的复原必有好处，便想留给自己吃也好。于是他当着孩子的面做示范，拿起吸管，吸了半管子鱼肝油。 | ///それにしても肝油は療養中の自分にとっても体力の回復に役立つ、思い直して自分で飲むことにした。早速、子供の前で模範を示すべく、ストローで半分がとこ吸い揚げ、上機嫌でグツと飲みこみ、ニコリしてみせた。 |
| 父子俩花一份钱的设想却是有诱惑力的，于是她拿出来变卖典当换来的、省吃俭用地消耗着的钱。 | それにしても父子で一人分という発想は魅力的だ。彼女は質入と切り詰めた生活で蓄えた金を出してやっでた。 |
| 热水已经撩了一会儿，父亲一把把孩子拖到池塘里，倪藻尖叫一声从温水里跑了出来。于是倪吾诚格格地笑了，他终于经过耐心的劝说、示范和一系列适应准备的完成，与儿子并排躺在温暖的浴池里了。 | 暫くお湯を掛けてから父親は息子を浴槽の中へ入れた。倪藻は悲鳴を上げて、微温湯の浴槽から飛び出した。倪吾誠もカラカラと笑った。そして終に有めすかし、やっで見てから、息子と並んで暖かい浴槽の中に横になった。 |
| ///俾斯麦年轻的时候住进一家乡间旅馆，他按了几下铃仍然不见侍应生来，于是他掏出手枪向屋顶开枪射击，这也没有给倪藻留下任何英雄形象，相反他觉得这样的人很蛮横，称得上横行霸道。 | ///ビスマルクは若い須田舎の宿屋に投宿し呼鈴を押しても給仕がこない、ビスマルクを取り出して天井へむけぶっ放した。そんな英雄的じゃなくむしらの横暴、いや悪法だししか倪藻には思えない。 |
| 有时候两位工作人员不得不劝告他和说服他早一点离去，倪藻方才意识到如果他不走这两个人也都走不了，于是他无可奈何地、恋恋不舍地还掉书。 | 時には凍えて鼻水をしきりにすすり上げながらも帰ろうとはしなかった。二人の館員早く帰るように促されることもあった。彼が帰らないとこの二人も帰れないのだと悟り、未練を残しながら粗末な『教育館』に渋々本を返して腰をあげるのだった。 |
| 奇痒象一条小蛇在她脸上盘旋，于是她的眼睛下面鼻梁两边的肌肉一抽一抽地收缩，收缩得眼睛左挤、右挤、两眼一起挤，然后一种痉挛性的收缩在整个面部运行。 | まるで小さな蛇が顔の上をモゾモゾ這いまわっているようで、鼻の両側の頬の筋肉がピクピクひき吊れ、それにつれて目まで左右、あるいは両眼とも歪み、最後には顔全体にクジャクシャツと痙攣が走る。/// |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| 不知从什么时候，人们鞋底上的泥渣留在地上，这地又潮，于是平平的地面上集结了一个又一个大小不一、半圆半不圆的小疙瘩。当时不但希望睡，而且希望醒，只有长眠不醒才能给他以休息、解脱和慰安。于是不得不睡，沾枕头便着。于是不再有呼吸，不再有鼻翼的翕动与滞结于喉头的痰，不再有激动的、快感的、愤怒的、挣扎的、堵塞的气喘吁吁。 | とはいへ何時の間に靴底が運びこんだ泥がこびり付いて、大小さまざまな形の塊を作ってしまった。眠い、死にたい。このまま目覚めなければいい。それしか、安らぎと解脱と慰めを得る方法はない。だから眠らねばと、枕に頭をつけるや眠りこけたが、だから呼吸もしないし、鼻翼を動かしたり喉にタンを絡めることも無く、激うごめ激息を粗げたり、快感に息を弾ませたり、あがいたり息詰まりであえぐこともない。 |
| 注射止血与调节血压的药剂，发现血压过低的时候使之升压，反之又让它降下来。于是不再躁动了，他闭上了眼睛，呼吸沉重如哀痛的呻吟，脸上或有不可知的与微不足道的表情掠过。生活已经腐烂到了这种程度，痛苦到了这种程度，完全不同的人，就是那些食利者剥削者的残渣余孽，那些不甘心一切照旧、坐待灭亡的生活在历史的夹缝里的畸零人，也真心企盼着暴风雨，祝愿着断层地震、天塌地陷、火山崩发、江水倒流。这个世界非翻它一个滚不行了，多数人已经意识到了这一点。于是，倪君说走就走了，革命去了。 | 止血と血圧調整の薬剤を注射すると、低すぎる血圧は上昇させ、高すぎると抑えるようだ。お陰で病人の精神不安と苦痛は治まり、目を閉じた。呼吸は哀切な呻吟のように重く沈み、顔には折々あるかなしかの表情が掠める。生活はここまで腐敗し苦痛もここまでできた。利殖を食む搾取者の残党や旧来を固守し滅亡を視座するに甘んじない歴史の狭間に生きるはぐれ者は、それこそ大風の到来を待ち望んでいた。地震よ天地を引き裂け、火山よ爆発せよ、河川よ逆流せよ。この世の中は天変地異が起こらないともう駄目だと、殆どが気づいていた。だから倪君もさっさと革命をしにいったのである。 |
| 身体健康的时候，倪君说一次又一次去找倪藻，甚至使倪藻觉得不胜其负担。于是倪藻不能不实行必要的自我保护措施。又五万年寂寥地逝去了，仍然没有人搭理他。于是爱变成了怨和恨，希望变成了绝望的愤怒。 | 健康な頃は度々押し掛けてこられて迷惑した。倪藻としても防衛措置をとらざるをえず、父の誘いをしばしば断った。だがこの五万年も虚しく過ぎ去った。そこで愛は憎しみに変わり、希望は絶望と憤怒に変わった。 |
| 她一面磕头一面说：“红卫兵爷爷，我是地主，我早就该死了，我叫吗行子来着……”她抬头问却之，却之告诉她叫“死有余辜”，于是她磕着响头不停的说自己是“死有余辜”。 | 老婆は頭を打ち付けながらいった。+++ 「紅衛兵の旦那方、私メは地主の、クダバリ損ないやして。えー、えーと……あれ何ちゅうたかいね……」と傍らの娘に訊ね「死んでも尚償いきれぬ輩」と教えられて、「その一死んでも尚償いきれぬ輩……」 |
| 高粱(原文) | 赤い高粱(訳文) |
| 人们说健儿取了绫罗，拿了大洋，却把男孩给扔到高粱地里，于是遭了天打雷轰。 | 健儿は絹の反物と銀貨を取ったのに、男の子を高粱畑に捨てたから雷にうたれたのだ、と人々は言った。祖 |
| 余占鳌猛然醒悟，知道不应该越级请示，于是气消心平，背着铺盖卷走到东院，见院子里酒缸成群，高粱成堆，作坊里热气腾腾，所有的人都在忙。 | 余占鳌は理解した。いきなり直談判は許されないのだ。怒りもおさまって、布団包みを背に東庭へ行ってみると、庭には酒甕がごろごろしており、高粱が山積みされ、酒造小屋には熱気がたちこめて、誰もが忙しくたち働いていた。 |
| 金光大道(原文) | 輝ける道(訳文) |
| 小龙最怕朱铁汉。因为朱铁汉一高兴就揪他的小鼻子，又酸又疼，憋得出不来气。于是，他撇下花母鸡，转身要往屋里跑，正好扑在妈妈的怀里。 | 小竜が世の中で一番こわいのはこの朱鉄漢である。それというのも、このおじさんは調子のいいとき小竜の鼻をつまみあげろくせがあるからだ。その苦しいのなんのって、息がつまってしまう。このさい、ニワトリなど問題ではない。一目散に家の中へかけこんだところ、うまい具合に母さんのふところ待っていた。 |
| 为了抹掉这个印象，避免怀疑，他不愿意跟冯少怀的关系表现得过分亲近。于是，他故意插一句说：“你得弄全面，对你这样的户，应当叫劳动起家，或是劳动致富。这是政策的政策。” | この印象をぬぐい、疑惑をさけるためにも、馮少懷との親しさを人前に出したくなかった。それで、わざとよそよそしくした。+++ 「あんたはもって全体を知らなければいかん。あんたみてえな場合は、労働して家を興すとか、労働して身上をつくるのでなければならん、これが政府の政策だ」 |
| 反正躲了初一躲不了十五，不如今个趁着儿子、媳妇都不在家，又有个拉架的，挨几下子得了。于是，她壮了壮胆子，站到西屋门口，做好招架拳打脚踢的准备，颤抖地说：“忘了告诉你，那壶，让我给摔了……” | どうせ、いつかはバレてしまうことだ。折りよく息子も嫁も出払っているし、仲裁役までいるんだから、二、三発殴られりやそれですむ……。そこで、彼女は腹を決め、隣の部屋から出てきて、いつ殴られ蹴られてもいい身構えになった。+++ 「あのよう、言うの忘れて。土瓶は前にわたしが割っちゃって……」+++ 声に震えがあった。 |
| 经过两天的反复思索，这种怀疑越发加重了。于是，他急不可待地跑到区里，找书记王友清请示。 | かれは二日ほどくり返し考えてみたが、この疑惑は深まるばかりであった。ついに居ても立ってもいられない気持ちにかれ、王友清書記の教をうけるため、区へ駆けつけた。 |
| 使他认识到，再■徨观望，再不伸手，可不行啦。于是，他忍着扭伤还没痊愈的腰疼，一面指挥闺女周丽平一伙女孩子抵制演那出坏戏，一面他亲自找张金发进行说服规劝。 | もうこれ以上グズグズして手をこまねいてはならないと思った。そこでかれはまだすっかりなおっていないギククリ腰の痛みをこらえ、周麗平たちを指揮してインチキ芝居の上演をボイコットさせる一方、自らは張金発にあたって説得と忠告をこころみた。 |
| 要是让这个老家伙当大媒，既稳又准，还免去了请客送礼破费钱，一举两得，实在难找的好窍门。于是，他停在道上，笑容可掬地迎着范克明，老远就打招呼：“老范，放假啦？” | この年寄りに仲人をやらせれば、し損はないし、ごちそうや贈物でムダ金を使わんでもすむ。なんと一挙両得でうまい工夫じゃないか。そこで道端に立ち止まって、ニコニコしながら范克明を迎え、そばにこないうちから、+++ 「范さん、お休みですか？」と声をかけた。 |
| “听听北京回来的人讲见闻吧。”+++ “等我哥回家跟我说吧。我有事儿……”+++ “噢，小子，跟谁去开碰头会吧？哈哈？”+++ 范克明听到这儿，心里猛地一动，想起前些日子冯少怀托付他说媒搭桥的事儿，一直没顾上办，不能错过这个好机会。于是，他一步跨到街中间，假装往前走，急收步的样子，喊了一声：“前边的是二林吗？” | 「北京から帰ってきた連中の話をきいたらどうだ」+++ 「兄貴から聞かせてもらおうよ、おれ用事があって……」+++ 「チェツ、こいつ、誰かさんの顔を探みに行くんだろう、ハハハ！」+++ 范克明は、ハッとして、数日前馮少懷に仲立ちをたのまれたことを思い出した。放ったらかしておいたが、この好機をのがしてはならない。そこで通りに出て、先を急ぎながら、ふと市ちどまってきたふりをした。+++ 「やあ、二林じゃねえか」 |
| 他推开了自己家那虚掩着的小排子门，见西边自己住的那间屋掌着灯，东院，高二林住的那屋的窗户黑着，说明兄弟已经睡下了。于是他用力端起排子门，不让她发出响声，又轻轻地掩上。 | 大泉は、軽く開めてあるだけのわが家の木戸をおした。自分たちが住んでいる西側の棟にはあかりがついてとこいたが、東の棟の高二林の部屋の窓はまっくらだった。弟はもう寝てしまったのだろうか。かれは音をたてないように木戸を持ち上げてそっと閉めた。 |
| 看着兄弟这一连串动作有点发楞的高大泉，伸手推推烟盒，说：“我卷早烟抽吧。”+++ 高二林说：“抽吧，这是人家送给我的，没舍得抽，留几支让你尝尝。”他说着，抽出一支，硬塞到哥哥手里。+++ 高大泉已经猜到这香烟的来历，他不喜欢这个。可是，兄弟掂着他的这片心意，却非常珍惜。于是，他把烟接了过来，抽着，看着兄弟的脸上流露着复杂的神情。还有过分举动的举动。可是，他听了张金发满篇的话都是指责高大泉的不是，十分恼火，认为必须当面指出来，这才是高大泉说的“党性”。于是他抖落着手那卷报纸，很认真地说： | 弟の言動に唾然とした高大泉はタバコをおし戻した。+++ 「おれは刻みにすつから」+++ 「吸いなよ、もらいもんだ、もったいないから、吸わせようと思ってとつといたんだ」+++ そう言って、一本を抜き兄の手におしこんだ。+++ 高大泉はタバコがどこから来たか察しがついたので、うれしくなかったが、弟の気持は有難かった。そこでタバコを手にして吸った。 |
| 大家都觉着这个办法好。于是，他们绕道奔高家。 | ///しかし、張金発があまり高大泉の悪口ばかり言うので、猛烈に腹が立ってきた。そして面と向かって指摘することこそ高大泉のいう「党派性」だと考えた。そこで手にもった新聞を振りながら、真剣な顔をしていった。それが良いだろうということになり、遠まわりして高大泉の家へ向かった。 |
| 七天没见回音，急得他坐立不安。他跑到天门镇，想找书记王友清催问，正赶上王友清到县里开会去了。于是他决定直接到县里。 | 七日間返事がなく、かれは居ても立ってもいられなかった。王友清書記に会って催促しようと思ひ、天門鎮に駆けつけたところ、王友清は会議で県に出かけていた。そこでかれは直接、県まで行くことにした。 |
| 他就是这样把老一代庄稼人的遭遇当借鉴，把老一代庄稼人的道路当规律，思谋和安排着自己的前途命运。于是，他把自己的一切一切都跟钱彩凤拴在一起。 | 高二林は古い世代の農民がたどった痛ましい一生を自らの戒めとし、そのたどった道を当然の成り行きと見え、自分の将来に思いをめぐらし、その設計を立てていた。だから、かれは自分的一切を錢彩鳳と結びつけて考えた。 |
| 他从钱彩凤的眼神里看到一种深情的暗示和鼓励，那意思让他忍着耐着，让他讨人欢心。于是他咬着牙，使死劲儿舞动铁锨，没有皱眉，也没有开口。 | かれは彩鳳の目差しにこもる無言の励ましを見た——おねがい、じつとがまんして、気に入られて。かれは歯をくいしばり、死にもの狂いでシャベルをふるい始めた。眉もしかめなかつたし、口もきかなかつた。 |
| 王友清比张金发站得高些，自然看得远些，对这个问题权衡得也就更全面周到一些。同时，他作为区里的第一把手，在答复这个问题的时候，就必须注意“原则”，掌握“分寸”，讲究“方式”，顾全“大局”。于是他今天对待张金发就不象过去那样见了面主动地询问工作情况，热情地加以指点，而是显得多少有点冷漠。 | 王友清は張金発より少し高い所に立っているだけ先を読んで、問題の取り扱い方も慎重だった。かれも区の最高責任者として、この問題に対応するのに「原則」、「ケジメ」、「方式」といったことに気をつかい「大局」にも十分心を配る必要があった。そのため、きょうはいつものように、会うなり自分から相手に仕事ぶりをたずね、なにくれと注意を与えるといった態度は見せず、いくらか冷やかだった。 |
| 家(原文) | 家(訳文) |
| “二哥，我现在才晓得演戏的奥妙了，”觉慧带着幼稚的得意的笑容说。“我想着，仿佛我自己就是‘黑狗’一样，于是话自然地流露了出来，并不要我费力思索。” | 「二哥、僕いまやつと芝居のことが分ったんだよ」覺慧は子供みたいな得意げな笑顔を見せていった。「僕考えたんだ。僕自身が黒犬みたいになってみたら、自然に言葉が出てくるんだよ。苦勞して思ひ出すことなんかちつともないや」 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| <p>深深的脚迹疲倦地睡在那里，也不想动，直到新的脚来压在它们的身上，它们才发出一阵低微的呖声，被压碎成了奇怪的形状，于是这一白无际的长街上，不再有清清楚楚的脚印了，在那里只有大的和小的黑洞。</p> <p>“那当然不成问题！”他自己决断地回答道。这时候他真正觉得她是处在琴的环境里面了，于是他与她之间一切都成了很自然，很合理的了。</p> | <p>深い足跡は疲れ果ててそこに睡って動こうとしなないのを、すぐに新しい足がその上を圧して、足跡は低い呖し声を生じてみにくい形に砕かれる。そしてこの白くかきりない街すには、そのままきちんと眠っている足跡はなく、そこにはただ大小の黒い洞穴を残しているだけである。</p> <p>“///「そうすれば当然問題はない」彼は自分で決断をくだした。そうすると彼女が琴と同じ環境にあるのだとほんとうに思えてきて、彼と彼女との間の一切がごく自然なものになっていった。</p> |
| <p>她默默地望着琴，看见琴的绝望到差不多要悲泣的表情，又觉得不忍，于是温和地说：“琴儿，你去睡罢。好在时间还早，那是明年秋天的事，我们将来再商量。我总会替你想办法。”</p> | <p>彼女はだまって琴を見つめていたが、琴の絶望のあまり泣き出しそうな表情をみてとると可哀そうになって、やさしくいった。「琴兒、もうおやすみよ。さいわいまた時日のあることだ。来年の秋のことだ。またいつか相談しようよ。母さんもなんとか方法を考えとくから」</p> |
| <p>本地报纸上又转载了《新青年》和《每周评论》里的文章。于是他在本城唯一出售新报纸的“华洋书报流通处”里买了一本最近出版的《新青年》，又买了两三份《每周评论》。</p> | <p>土地の新聞にはまた「新青年」や「毎週評論」の中の記事が転載された。彼はこの城内でただ一軒の新刊書を売る店で、最近出版された「新青年」一冊と、二三冊の「毎週評論」を買った。</p> |
| <p>这些刊物里面一个一个的字像火星一样地点燃了他们兄弟的热情。那些新奇的议论和热烈的文句带着一种不可抗拒的力量压倒了他们三个人，使他们并不经过长时间的思索就信服了。于是《新青年》、《新潮》、《每周评论》、《星期评论》、《少年中国》等等都接连地到了他们的手里。以前出版的和新出版的《新青年》、《新潮》两种杂志，只要能够买到的，他们都买了，甚至《新青年》的前身《青年杂志》也被那个老店员从旧书摊里捡了出来送到他们的手里。</p> <p>他正要开口问，忽然注意到祖父的脸上现出了不高兴的神气，他明白多嘴反会招骂，于是静悄悄地向外面走去。</p> <p>觉新依旧唯唯地应着，一面向觉慧做了一个手势，于是两个人悄悄地走了出来。</p> | <p>その中の一字一句が、火花のように彼ら兄弟の熱情を燃え立たせた。それらの斬新な議論や熱烈な文章は、大きな力で彼ら三人を圧倒して、考える余地とてなく、たちまち彼らを信服させたのであった。そこで「新青年」「新潮」「毎週評論」「日曜評論」などが続々と彼らの手に入った。月おくれでも新刊でも、「新青年」や「新潮」は、手に入り次第彼らは全部買ってしまった。「新青年」の前身である「青年雑誌」さえ、本屋の老店員が、古本の山の中からさがし出して彼らの手にとどけるという有様だった。</p> <p>彼はたずねてみようと思ったが、ふと祖父の顔に現われた不機嫌な表情をみてとると、よけいなことをいってかえって叱られてはと、そと外へ出て行こうとした。</p> <p>覚新は相変らずいんぎんにこたえて、覚慧には手つきで示して、二人はそとこの部屋を出て行くのだった。</p> |
| <p>可是关于学潮的记载却逐渐地少起来，以至于没有了。于是觉慧连报纸也不翻看了。</p> | <p>学生運動の記事はかえって少くなり、やがて消えてしまった。もう覚慧は新聞も読まなくなった。</p> |
| <p>“寂寞啊！”觉慧常常在房里叹息道，他不高兴再读新报纸了，这只有使他更感到寂寞。于是他翻出那本搁置了许久的日记本，信笔在上面写了一些字。</p> | <p>「さびしいなあ」覚慧は一人部屋の中で嘆息する。近ごろでは新刊書や新聞にも興味を失った。それらがかえって寂寞を増すものでしかなかったからだ。そこで彼は長いこと抛り出してあった日記帳をとり出して、その上に筆を走らす。</p> |
| <p>老太爷端起酒杯，向四座一看，看见堂屋里挤满了人，到处都是笑脸，知道自己有这样多的子孙，明白他的“四世同堂”的希望已经实现，于是脸上浮出了满足的微笑，喝了一大口酒。</p> | <p>老太爺は酒杯を挙げ一座を見まわして、堂屋になみいる人々を眺める。どこにも笑いざめく顔がある。こんなにたくさんの子孫ができた。彼の四世同堂の希望は実現したのだ。彼は満足げな微笑を浮かべてぐっとひと息に酒を飲みほした。</p> |
| <p>老太爷的这种不寻常的高兴给这张桌子上带来一点生气，于是克安和克定、王氏和陈姨太先后划起拳来，大口地喝着酒，筷子也动得勤了。</p> | <p>老太爺がこのご機嫌なので、この卓も少し活気を帯びてきて、歓談の声が高まり、箸がさかんに動き出した。</p> |
| <p>四房的仆人赵升刚刚端上来一盆炆鲍鱼片，十三岁的觉英挟了一块放在嘴里，他听见瑞钰的话便笑起来，连忙放下筷子说：“大嫂说得真可怜！我们不要吃了，多少剩一点给大家。”于是全桌的人都放下筷子笑了。</p> | <p>袁成がちょうど鮑の甘煮を卓上においたのを、十三歳の覚英が一つまみ口へ持っていったところだったが、瑞口の言葉をきいて笑いながらあわてて箸をおろしていった。「大嫂が気の毒だから、僕たちたべてはいけません。少しのこして大嫂に上げようよ」そこでみな箸をおいて笑った。</p> |
| <p>众人依次序数过去，中间除开淑芬、觉世、觉群三个不算，数到花字恰是觉慧，于是都叫起来：“该你吃酒。”</p> <p>这样大家都没有兴致，各人回到自己的房里去了。于是这样一所大公馆又显得很冷静了。</p> | <p>みなが琴から順々に、間の覚世と覚群を除いて数えていくと、花の字は大番目であるから、ちょうど覚慧だった。みなが「罰杯だ」と叫ぶ。</p> <p>こうしてみなが歡樂のあとの悲哀を感じて、おのおの自分の部屋へ帰って行く。ここでこの宏大な邸宅はまた静かになった。</p> |
| <p>谁都希望她马上踢落鞋子，然而事实上她愈踢下去，鞋子愈不肯离开她的脚，好像她一个人永远不会把鞋子踢落了。于是众人又在旁边抱怨起来，甚至有人发出声音来扰乱她的注意。</p> | <p>彼女が落せばいいとみんなが思っても、彼女は蹴りつづけて、羽子は彼女の足を離れようとしなない。まるで彼女一人で永遠に蹴っているように思えた。見ている者ほうらめくようになってくる。中には声を上げて彼女の注意を乱そうとする者もあった。</p> |
| <p>觉慧和别的人一样也曾经注意过这双在公馆里出名的小脚，但是它们并不曾博得他的怜爱。在他看来这双小脚就像大门口墙壁的枪弹痕，它们给他唤起了一段痛苦的回忆。于是淑贞的因缠脚而发出的哀泣声又越过那些年代而回到他的耳里来了。</p> | <p>この畸形の脚は痛々しく人々の注意をひいた。覚慧も他の者と同様、この邸宅で有名な小さい足に眼をそそいだ。しかしそれはけっして彼の憐愍の情を誘わなかった。彼にはそれは大門の壁の銃弾の痕に等しいと考えられた。それらははげに惨ましい回憶を呼び起した。そして淑貞の纏足のために発せられた哀しい泣き声が、長い月日を隔ててまた彼の耳に返ってきた。</p> |
| <p>梅的悲哀渐渐地减少了。她虽然还微微地皱着眉头，但是脸上已经没有阴暗的颜色，她甚至带笑地说：“不要紧，谈了这许多话，心里倒爽快了些。平时在家里连一个跟我谈话的人也没有。而且谈起从前的事情，我倒高兴多了。”于是她又用亲切的语调向觉民兄弟絮絮地询问他们的大哥和嫂嫂的事情。</p> | <p>梅の悲哀はようやく消えていったようだ。いくらかまだ眉根は寄せていたが、顔にはもう先刻の暗さはなくなっていて、微笑さえ浮かべていった。「構わないのよ。いろいろお話ししたら気持ちすうとしたわ。いつも家にいたって誰一人話し相手もないですもの」そこでまた彼女は親しみ深い口ぶりで覚民兄弟にいろいろと、大哥や嫂嫂のことをたずねるのだった。</p> |
| <p>鸣凤在屋里抬起头吃惊地向四面张望，她看不见什么，便叹息道：“刚刚睡着就做起梦来了。好像有人在喊我。”于是她懒洋洋地撑着桌子站起来，让灯光把她的早熟的少女的影子投在帐子上。</p> | <p>その少女はびつくりして頭を上げて部屋を見まわしたが、何も見えない。「眠っちゃって夢を見たのかしら。誰か呼んだようだったけれど」彼女はため息をついてものうけに、机に手をついてたち上る。早くも成熟した少女の長い影が帳の上に映し出された。</p> |
| <p>每个人都曾经有过一段美丽的梦境，这时候都被笛声唤起了，于是全沉默着，沉醉在回忆中，让笛声软软地在他们的耳边飘荡。</p> | <p>彼らも異様な感じに誘われて、わずらわしい現実を忘れさせられるように思った。誰もが昔の夢を思い出して沈黙し、浩然として追憶の中に酔う。笛の音は軟らかく彼らの耳にまつわるのである。</p> |
| <p>觉英正站在他的背后，第一个拍掌叫好。于是年轻的一代人同声附和起来。</p> | <p>覚英が彼のうしろに立っていたが、一番先に手を打って喜んだので、若い連中が一緒に歓声を上げた。</p> |
| <p>克定这样地安排，自己以为再妥当不过了，况且白天他已经收下了一条龙灯的帖子。于是他放心地回到里面去跟家人谈笑。</p> | <p>彼はこうして準備を済ませたら、十分であると考えた。まして屋のうちに竜灯の書付け主で受けているのだ。彼はそこで少々のおんびりした気持ちになり、内へはいつて家の者と歓談していた。</p> |
| <p>///而且元宵节一过，新年佳节就完了，各人都有自己的事情，再不能够像在新年里那样痛快地游玩了。于是大家聚在一起，在觉新的房里商量怎样度过这个晚上。</p> | <p>///その上元宵節が過ぎれば、新年の佳節もおしまいで、みながまた各自の仕事を始めなければならず、正月のように愉快地遊ぶこともできなかった。そこでみな覚新の部屋へ集まって、どういうふうにとこの晩を過そうかと相談をはじめた。</p> |
| <p>觉慧慢慢地沿着湖向桥边走，他还叫鸣凤同去。他跟鸣凤谈了几句话。鸣凤简短地回答了他，便又回到淑贞那里。觉慧快走走到桥头时，才发现自己是一个人，鸣凤并未跟来，于是他又转身回去。</p> | <p>覚慧は鳴鳳について来るようにして、ゆつくりと橋の方へ湖のほとりを歩いていった。彼は鳴鳳に話しかけたが、彼女は短く答えるきりだった。そしてまた淑貞たちの方へ行ってしまった。覚慧は橋のじき手前まで行ったとき、自分一人きりで鳴鳳がいて来ないのに気がついて、またひき返して来た。</p> |
| <p>“不早了，还是回去吃汤圆罢，”觉慧抢着答道。没有人反对这个提议。于是觉新把船靠近了岸，依旧泊在柳树下，让众人一一上了岸，把缆拴在树上，然后跟着众人向桥头走去。</p> <p>街上到处都是败兵，三五成群地走着，现出很狼狈的样子，不是落了帽子，就是失了裹腿，有的衣服敞开着，有的连番号也脱落了。现在武器也没有多大用处了。大家把枪握着，拿着，掂着，背着，然而甚至在这个时候他们还没有失掉平日的骄傲，他们还是一样地横眉竖眼在街上找人寻事，常常使人想起他们在这种情形中的故技。于是恐怖的气氛又突然加浓了。</p> | <p>覚慧がさっそく横合いから「もう遅いから、やっぱり帰って湯元を食べよう」そういうのに、誰も反対しなかった。そこで覚新は船を岸に近づけ、纜を樹につなぐと自分も後から橋の方へ歩いていった。</p> <p>街にはいたるところ敗残兵が三々五々群をなして、異常に狼狽した様子が見える。帽子をかぶっているかと思うとゲートルがないという有様、あるいは衣服をばたけ、あるいは番号さえ破ってしまっている。銃はさげたり、手にもっていたり、肩になつたり、背中に負つたりしている。しかしながら彼らはまだ平生の傲慢さを失ってはいない。一様に憎たらしい顔つきで街を物色している様子である。こうした情勢の中で彼らがいっつもするわるい癖を思い出し、誰もがいっつも恐怖をかき立てられるのであった。</p> |
| <p>在这个公馆里还不到午饭时间，忽然起了骚动，平静的空气被扰乱了。最初是四太太的父亲王老太爷派人来接她回去，说外面谣言很多，今天晚上恐怕会发生抢劫的事情，高家是北门一带的首富，不免要首当其冲，所以还是早早避开的好。于是四乘轿子带走了王氏和她的五个孩子（倩儿和带淑芳的杨奶妈也跟去了）。</p> | <p>と、この邸内はたちまち騒がしくなって、静かな空気がかき乱された。事の起りは、四太太の実家である王家から迎えが来て、彼女を連れて帰るというのである。それは外に流言蜚語が飛んで、今夜はおそらく掠奪が起る。高家は北門第一の富豪だから、難は免れまい。だから早々に避難した方がいいというわけだ。そこで三挺の轎が王氏と四人の子供を乗せて去った。</p> |
| <p>稍微有一点点的响动，人就以为是乱兵闯进来了，于是脑子里浮现了那一幅使人永不能忘记的图画：枪刺，刀，血，火，女人的赤裸的身体，散在地上的金钱，大开着皮箱，躺在地上的浴血的尸体。</p> | <p>ちよつとした音がしても、反乱兵が闖入してきたのではないかと思う。誰もが脳裡に描くのは、永遠に忘れられない地獄絵図だった。銃剣、刀、血、火、女の裸体、地上に散らばった金、ひっくり返されたトランク、血にまみれて横たわる屍体、こうしたものが映画のように映つてきて、彼らにいっつも恐怖をつららせる。</p> |
| <p>高忠从外面进来，带着惊惶的脸色报告说，军队要驻扎。于是女眷们都跑到房里躲起来，好像军队就要开进堂屋里来似的。</p> | <p>高忠は外からあわててはいつて来て、軍隊が駐屯したいと申し出て来たこと報告する。女たちはまるで今にも軍隊が堂屋へはいつて来るとでもいうふうで、さっそく部屋へ逃げこんでしまった</p> |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|---|
| 他们觉得没有意思，正要离开，恰好觉新在这时候回来了。于是克定又把这件事情告诉觉新，并且说克明的处置未免操之过急。忽然门上起了叩声，这是表示舍监走近的暗号，于是众人开了门，散去了。 | 彼らは興味もなく歩き去ろうとすると、ちょうど覚新が帰って来た。そこで克定はまたこの話をくり返し覚新に告げ、克明の処置が過激すぎたことつけ加えた。とつぜん扉がたたかれた。これは舎監が来るという合図なので、みな戸を開けて散らばってしまった。 |
| 但是并不要多久的时间，她们的希望就破灭了，她们的血泪也流尽了，于是倒下来，在那里咽了最后一口气。忽然一个声音在她的耳边响起来，好像有人在说：“一切都是命中注定了的。你不能够改变它。”于是一种不可抗拒的绝望的感觉紧紧地抓住了她。 | しかしやがて彼女たちの希望は失われ、彼女たちの血涙も尽き果てて、打ち倒れ、最後の息を引きとる。急にはっきりした声で彼女の耳に誰かがささやいた。「いっさいは運命が決まっているのだ。それを改めることはできないのだ」抵抗できない、絶望的な苦痛が彼女を包んだ。 |
| 轮椅上的梦 (原文) | 車椅子の上の夢 (訳文) |
| “■■■■——”放学的钟声响了，这种声好像在催促小曦下决心。下课了，同桌的男孩子把书本往课桌里一扔，砰的一声桌上桌盖就要往外跑，小曦意识到，如果现在不说，她再就再也没有勇气了，于是，她猛地把他叫住了，轻声地问：“我跟你商量一件事，行吗？”那口气是极谦恭的。我不愿让爸爸发现我醒了，于是又赶忙闭上眼睛。 | 「カランカランカラン……」終業の鐘が決心をうながすように鳴り始め、となりの子は教科書を机の中に放りこむと、ボンと机のふたを閉めて校庭に駆けだそうとした。+++「いま言わなければ……二度と話す勇気は出ない」小曦は急いで男の子を呼び止めて、「ちょっと相談したいことがあるんだけどいい？」とたずねた。目を覚ましたのを知られたくないと思って、私はあわてて目を閉じた。 |
| 不知什么时候，月亮钻出了乌云，把小柳树摇曳的影子投在糊窗纸上，晃啊、晃啊，我忽然觉得那些枝枝叶叶好象变成了一只只正在向我伸来的魔爪，于是赶忙把头蒙在了毛巾被里。///她忽然想起前几天的一个下午，她刚刚跑出楼门，谭静便冲出来急火火地拽住她，告诉她方丹病倒了。可那时她正急着到红卫兵连部去开会，于是，顾不得说什么便匆匆跑了。 | いつのまにか雲の切れ間から月が顔を出し、窓の新聞紙にヤナギの影を映している。垂れ下がった小枝がゆれた。ゆれて、ゆれて……突然、それが鋭いかぎ爪に見えてきた。私は頭から毛布をかぶった。///燕寧は、急に何日か前の午後のことを思い出した。アパートを出たちょうどその時、譚静が飛び出して彼女の手を取り、方丹が病気で倒れたと告げたのだ。紅衛兵中隊本部の会議に駆けつけたところだった燕寧は、返事もしないで走りだした。 |
| “哎，马燕宁，该你啦！”燕宁正在愣神儿，猛地听到后面的人敲着碗提醒她，于是她赶忙张手包凑近窗门。燕宁笑自己的胆怯，她疑心自己刚才听错了，于是，又关上窗子，躺下去拉灭了电灯。 | 「ほら、馬燕寧、あなたの番だよ！」うしろの学生が碗をたたいて催促したので、我に返った燕寧は急いで窓口に近寄りカバンを開けた。燕寧は自分の臆病さを笑い、さっきは雨の音を聞き違えたのかと思って窓を閉め、ベッドに戻って明かりを消した。 |
| 他们垂下来的双腿稍一活动，就会碰到下面的人，于是，就会引起一阵乱嚷嚷的叫骂。有时他几乎灰心了，可是又觉得仿佛再走一步就能找到，于是又咬着牙坚持下去。微风吹过窗前，小蝴蝶的翅膀簌簌地抖动起来。也许它感到冷了，于是飞了起来，很快在蓝天里变成了一个白色的斑点。 | 足を少しでも動かすと下の人の頭に当たって、とたんにのしり合いが始まる。あきらめなくなってきたが、あと一歩で見つかるような気もして、また歩き続けた。あゝ風が微かに吹いてきて羽根を震わせ、寒くなったか、蝶はフワッと舞い上がり、あつという間に青空の小さな白い斑点になってしまった。 |
| 屋里的气氛变得冷淡了，谭静发现主考们脸上露出了失望的神情，但是，郝队长好象不愿放弃她，于是，就又同主考们小声争论和商量起来。在黎江看来，荒原上的狼眼睛比天上的星星还要多，于是，他在绳栏外燃起一簇簇篝火，又拧亮挂在绳栏上的盏盏马灯。三梆子、牛牛和几个小子见那个女孩子走过去，便追在她身后又蹦又跳地喊起来，于是她更加快了脚步，那只大草筐半拖半拽，磕磕碰碰地跟着她拐出了场院门。 | 部屋の空気が急に冷え冷えとしてきた。審査員たちもバオ残念そうな顔をしている。しかし郝隊長は、あきらめきれない様子で彼らと小声で相談し始めた。彼には荒野を駆けるオオカミの目が空の星より多いように思われたので、急いで囲いのまわりにも松明を焚き、杭にはカンテラをぶら下げた。三■子と牛牛の他に何人か、飛び跳ねるように彼女の後ろ姿を追いながら大声ではやした。彼女はますます足を速める。大きな籠が引きずられてポンポン跳ね、すぐに門を出て見えなくなった。 |
| 呐喊 (原文) | 呐喊 (訳文) |
| 所以我们的第一要著，是在改变他们的精神，而善于改变精神的是，我那时以为当然要推文艺，于是想提倡文艺运动了。 | 私たちが最初にやらねばならぬことは、彼らの精神の改造にある。そして、精神の改造に役立つものといえば、私の考えでは、むしろ文芸が第一だった。そこで文芸運動を提議しようと考えた。 |
| 只是我自己的寂寞是不可不驱除的，因为这于我太痛苦。我于是用了种种法，来麻醉自己的灵魂，使我沉入于国民中，使我回到古代去，后来也亲历或旁观过几样更寂寞更悲哀的事，都为我所不愿追怀，甘心使他和我的脑一同消灭在泥土里的，但我的麻醉法却也似乎已经奏了功，再没有青年时候的慷慨激昂的意思了。 | それでも私自身の寂寞は駆除しなければならなかった。それは私にとってあまりにも苦痛だったからである。そこで私はいろいろな方法で、自分の魂を麻酔させ、自分を国民のなかに沈め、自分を古代に返らせようとした。その後もっと大きな寂寞、もっと大きな悲しみを、なんとか直接経験したり傍観したりした。すべて私にとっては、思い出したくない、いっそ私の脳味噌といっしょに泥のなかに埋めてしまいたいことばかりだ。が、私の麻酔法は効きめがあったと見えて、もはや青年時代の慷慨激昂の気持はおこらなくなった。 |
| 是的，我虽然自有我的确信，然而说到希望，却是不能抹杀的，因为希望是在于将来，决不能以我之必无的证明，来折服了他之所谓可有，于是我终于答应他也做文章了，这便是最初的一篇《狂人日记》。 | それはそうだ。私はむしろ、私なりの確信があるのだが、希望ということになれば、これは抹殺できない。なぜなら、希望は将来にあるものであって、私の「絶対にない」という証明でもって、「ありうる」という彼の説を説き伏せることは不可能だからだ。そこでけっきょく、私も何か書くことを承知した。これがすなわち、最初の『狂人日記』という一篇である。 |
| 单四嫂子接过药方，一面走，一面想。他虽是粗笨女人，却知道何家与济世老店与自己的家，正是一个三角点；自然是买了药回去便宜了。于是又径向济世老店奔过去。 | 単四嫂子は処方箋を受け取った。そして、歩きながら考えた。彼女は愚かな女ではあったが、何家と濟世老店と自分の家とは、ちょうど三角点になっているから、当然、薬を買って帰るほうが都合だというくらいは判断できた。そこで、こんどは濟世老店めざして道をいそいだ。 |
| “我于是不穿洋服了，改了大衫，他们骂得更利害。” | そこでぼくは、洋服はよして、長衣にかえたが、やつらの悪口はいよいよひどくなった。 |
| 我所记得的故乡全不如此。我的故乡好得多了。但要我记起他的美丽，说出他的佳处来，却又没有影像，没有言辞了。仿佛也就如此。于是我自己解释说：故乡本也如此，——虽然没有进步，也未必有如我所感的悲凉，这只是我自己心情的改变罢了，因为我这次回乡，本没有什么好情绪。 | 私の記憶している故郷は、まるでこんなふうではなかった。私の故郷は、もっとずっとよかった。だが、その美しさを胸にえがき、そのよさをことばに表わしてみようとする、その映像はたちまち消え、ことばは失われてしまう。そして、やはりこんなふうだったかと思えてくる。そこで、私は自分を慰めてこういうのだった。故郷はもともとこんなふうなのだ——進歩もないかわりに、私の感じるようなさびしさもありはしない。そう感じるの、ただ、私自身の心境が変わったせいだ。なぜなら、こんどの私の帰郷は、けっして心楽しいものではないのだから。 |
| 一犯讳，不问有心与无心，阿Q便全疤通红的发起怒来，估量了对手，口讷的他便骂，气力小的他便打；然而不知怎么一回事，总还是阿Q吃亏的时候多。于是他渐渐的变换了方针，大抵改为怒目而视了。 | ちょっとしたこの禁を犯すものがある、それが故意であろうがなかるうが、阿Qは禿までまっ赤にして怒りだし、相手によって、ロベたなやつと見れば罵倒したり、弱いやつと見れば殴りかかった。ところがどうしたわけか、阿Qのほうがやられてしまう場合が多かった。そこで彼はしだいに方針をかえて、たいていは目を怒らせてにらみつけることにした。 |
| 闲人还不完，只撩他，于是终而至于打。 | だが、連中はそれでやめず、なおも彼からんできて、とうとう殴り合いになった。 |
| 阿Q的意思，以为癞是不足为奇的，只有这一部络腮胡子，实在太新奇，令人看不上眼。于是他并排坐下去了。 | 阿Qの意見では、禿は何ら異とするに足りないが、あの類にまで伝わるヒゲときては、じつに奇妙千万で、見られたさまはない、というのである。そこで阿Qは、彼と並んで腰をおろした。 |
| 他翻身便走，想逃回春米场，不图这支竹杠阻了他的去路，于是他又翻身便走，自然而然的走出后门，不多工夫，已在土谷祠内了。 | 彼はさっと身をひるがえて逃げようとした。米つき場へ逃げようと思ったのだが、竹の天秤棒が彼の行く手をふさいでいた。そこでまた、向きを変えて逃げだしたところ、自然と裏門に出たので、そのまま走って、またたくまに、土地廟に逃げ帰った。 |
| 这谦逊反使阿Q更加愤怒起来，但他手里没有钢鞭，于是只得扑上去，伸手去拔小D的辮子。 | このへり下った言い方が、かえって阿Qを一層逆上させた。だが彼は、手に鉄の鞭を持っていなかった。そこで素手で飛びかかって行き、狼髯をのぼして小Dの弁髪を引っぱった。 |
| 他想在自己的破屋里忽然寻到一注钱，慌张的四顾，但屋内是空虚而且了。于是他决计出门求食去了。 | ひょっとすると自分の破れ小屋のなかから金が出てきしまいかと思って、キョロキョロあたりを見回してもみたが、部屋のなかはがらんどどうで一目瞭然だ。そこで彼は食物を求めて外に出て行くことにした。 |
| 阿Q怕尼姑又放出黑狗来，拾起萝卜便走，沿路又捡了几块小石头，但黑狗却并不再出现。阿Q于是抛了石块，一面走一面吃，而且想道，这里也没有什么东西，不如进城去…… | 阿Qは、尼がさらに黒犬をけしかけるとはならないかと思って、大根を拾ってすぐ逃げだした。路々、石ころをいくつか拾った。だが黒犬はもう出てくる様子ではなかった。そこで阿Qは石ころを捨てて、歩きながら食い、食いながら考えた。ここには求められているものはない、いっそ城内へ行く…… |
| 秀才对于阿Q的态度也很不平，于是说，这忘八蛋要提防，或者不如吩咐地保，不许他住在未庄。 | 秀才も阿Qの態度には大いに憤慨した。かくて、あの忘八蛋には用心せんといかん、いっそ地保にいっつけて、やつを未莊から所払いにした方がよいかもしれん、ということになった。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| 殊不知这却使百里闻名的举人老爷有这怕，于是他未免也有些“神往”了，况且未庄的一群鸟男女的慌张的神情，也使阿Q更快意。 | ところが、なんとその革命党が、百里四方に名の聞えた举人旦那をそれほどまでに怖がらせたのだから、彼としてもいささか「恍惚」となった。まして、未荘のろくでなしどものあわてふためく様子を見ては、ますます小気味がよくなった。 |
| 他们想而又想，才想出静修庵里有一块“皇帝万岁万万岁”的龙牌，是应该赶紧革掉的，于是又立刻同到庵里去革命。 | 彼らは考慮に考慮を重ねた末、静修庵に「皇帝万歳万々歳」の龍牌(官庁、学校、廟などに備えてあり、式日の礼拝に使用される)があったのを思い出した。まずあれを革命の血祭りにすべきだということになって、すぐさま二人して庵に革命に行った。 |
| 但他究竟是做过“这路生意”，格外胆大，于是踱出路角，仔细的听，似乎有些嚷嚷，又仔细的看，似乎许多白盔白甲的人，络绎的将箱子抬出了，器具抬出了，秀才娘子的宁式床也抬出了，但是不分明，他还想上前，两只脚却没有动。 | 何といっても「この商売」に経験があるだけに、彼は胆がすわっていた。また曲り角まで忍び足でひっ返して、じっと聞き耳を立てた。ガヤガヤ人声がしている。さらに目をこらして見ると、白鎧白兜のものが、大勢、あとからあとから衣裳箱をかつぎ出し、家具類をかつぎ出し、秀才の細君の寧波寝台までかつぎ出しているようだ。ただ、はっきり見えないので、もっと前に出ようと思ったが、二本の足がいうことをきかなかった。 |
| ///举人老爷窘急了，然而还坚持，说是倘若不追赃，他便立刻辞了帮办民政的职务。而把总却道，“请便罢！”于是举人老爷在这一夜竟没有睡，但幸第二天倒也没有辞。 | ///举人旦那は返事につまんだが、それでも自説はひっこめないで、盗品の詮議をやらぬなら、たつたいま、民政委員を辞職する、といきました。ところが、准尉は「どうぞ自由に!」とつばねたので、そのため举人旦那はその夜はまんじりとしなかったのである。しかし幸いにして翌日も辞職はしなかった。 |
| 他同时想手一扬，才记得这两手原来都捆着，于是“手执钢鞭”也不唱了。 | 同時に彼は手をふりあげようとして、はじめて両手が縛られていることに気づいた。で、結局「手に鉄の鞭をとり」も歌わずじまじになった。 |
| 不但不开口，当教员联合索薪的时候，他还暗地里以为欠斟酌，太嚷嚷；直到听得同寮过分的奚落他们了，这才略有些小感慨，后来一转念，这或者因为自己正缺钱，而别的官并不兼做教员的缘故罢，于是就释然了。 | 文句を言わないばかりでなく、教員が団結して給料の支払要求をしたときには、あまり騒ぎ立てるのはエゲツない、と内心ひそかに思っただけであった。もともと、役所の同僚があまり小っぴどく教員を嘲笑するので、そのときは、さすがに少しばかり感情的になった。その後また思い直して、これはことによれば、自分がちやうど金に困っており、そしてほかの官吏は教員を兼ねていないためかもしれない、と考えて、釈然としたのであった。 |
| 他们是没有受过新教育的，太太并无学名或雅号，所以也就没有什么称呼了，照老例虽然也可以叫“太太”但他又不愿意太守旧，于是就发明了一个“喂”字。 | 彼らは新教育を受けたことがなく、奥さんには学名もなければ雅号もなかったもので、こんなときの呼び名はなかった。昔からのしきたりだと「奥さん」(太太)と呼んでいいわけだが、彼は旧弊な言い方は好まなかった。そこで「おい」というのを発明したのである。 |
| 然而政府竟又付钱，学校也就开课了。但在前几天，却有学生总会上一个呈文给政府，说“教员倘若不上课，便要付欠薪。”这虽然并无效，而方玄绰却忽而记起前回政府所说的“上了课才给钱”的话来，“差不多”这一个影子在他眼前一晃，而且并不消灭，于是他便在讲堂上公表了。 | しかし政府がこんどは金を払ったため、学校も授業をはじめた。ところが、その何日か前に、学生大会が請願書を政府に提出して、「教員が授業をしないなら、未払分の給料は渡さぬように」と申し入れた。これは無効に終わったけれども、方玄緯はふと、前に政府が「授業をすれば金をやる」と声明したのを思い出して、「それほどちがわぬ」という影がまたしても彼の眼の前にちらついて、なかなか消えようとしなかった。そこで彼は教室でこの説を公表したのである。 |
| 但邻居懒得去看，也并无尸亲认领，于是经县委员相验之后，便由地埋埋了。 | 隣人は面倒がつて見に行こうとしないし、死体を引取りに来る親戚もなかったので、県委員の検屍がすむと、地保の手で埋められた。 |
| 三太太吆喝道，“S，听着，不准你咬他！”于是在他头上打了一拳，S便退开了，从此并不咬。 | 三太太は「こら、エス、おぼえておくのよ。吠えたらきかないからね」と叱りつけて、犬の頭をビシヤリと叩くと、エスは尻ごみして、それからは決して吠えようとしなかった。 |
| 太阳出来了，他们却都不见。于是大家就忘却了。 | 太陽が出た。ところが彼らは姿を見せなかった。そこでみんなは、それきり忘れてしまった。 |
| 他以为这也很有趣，于是又不能不买，一共买了四个，每个八十文。 | その愛らしげな様子といったらたいへんなもので、そこで彼は、こんども買わないわけにいかなくなった。全部で四匹、一匹八十文で買った。 |
| 双喜以为再多偷，倘给阿发的娘知道是要哭骂的，于是各人便到六一公公的田里又各偷了一大捧。 | 双喜が、これ以上とって、もしも阿発のお袋に知れたら、泣きわめかれるぞ、と言ったので、こんどは六一じいさんの畑へ行って、またそれぞれ両手にいっぱいずつ偷った。 |
| 彷徨 (原文) | 彷徨 (訳文) |
| 但是，谈话是总不投机的了，于是没多久，我便一个人剩在书房里。 | だが、それにしても話が合わないのはどうしようもなく、だからしばらくすると、私はひとり書齋に置き去りにされた。 |
| “也许有罢，——我想。”我于是吞吞吐吐的说。 | 「あるかもしれない——と思うけど」そこで私は口ごもりながらいった。 |
| 孩子看见她的眼光就吃惊，牵着母亲的衣襟催她走。于是又只剩下她一个，终于没趣的也走了，后来大家又都知道了她的脾气，只要有孩子在眼前，便似笑非笑的先问她，道： | 子どもは、彼女の目つきにびっくりして、母親の襟を引っばるなり、早く行こうとせかす。そこで、彼女はまたひとり取り残されて、興ざめたように引きさがることになる。のちには、彼女のくせが人々にも知れわたって、子どもが目の前にいると、笑うような顔をして、きままつちからたずねるのであった。 |
| 然而她总如此，全不见有伶俐起来的希望。他们于是想打发她走了，教她回到卫老婆子那里去。 | だが、彼女はいっこうに変わらず、頭が治る見込みはまるきりなかった。そこで叔父一家は、ひまを出して、彼女を衛ばあさんのところへ帰そうということになった。 |
| 那么，在那里好呢？——湖南也打仗；大连仍然房租贵；察哈尔〔6〕，吉林，黑龙江罢，——听说有马贼，也不行！……”他又想来想去，又想不出好地方，于是终于决心，假定这“幸福的家庭”所在的地方叫作A。 | では、どこにすればいいか。——湖南でも戦争をやっている。大連はやはり家賃が高い。察哈爾、吉林、黒龍江にしようか、——馬賊がいるそうだから、これもダメだ……彼はさらにいろいろ考えたが、どうしても適当な場所が思いつかぬ。そこでついに決心して、この「幸福な家庭」のある場所を、Aと仮定することにした。 |
| ///果然，呼气之后，心地也就轻松不少了，于是仍复恍恍惚忽的想——“什么菜？菜倒不妨奇特点。” | ///果して、深呼吸の後には、気持ち大分軽くなった。そこでまた、ぼんやり考えはじめた。「どんな料理?料理は変っていてもいい。 |
| 四铭太太正在斜日光中背着北窗和她八岁的女儿秀儿糊纸锭，忽听得又重又缓的布鞋底声响，知道四铭进来了，并不去看他，只是糊纸锭。但那布鞋底声却愈响愈逼近，觉得终于停在她的身边了，于是不免转过眼去看，只见四铭就在地面前耸肩曲背的狠命掏着布马挂底下的袍子的大襟后面的口袋。 | 四銘夫人は、夕方の日射しのなかで、北窓を背にして、彼女の八歳になる娘の秀児といっしょに紙銭の糊づけをしていた。ふと、重い緩やかな布靴の音がきこえ、夫の四銘がはいってきたのがわかった。だが振り向きもしないで、そのまま糊づけの仕事をつづけていた。その布靴の音は、ますます近づいて、どうやら彼女のそばまできてやっど停まったようなので、夫人としても顔をあげないわけにいかなくなった。 |
| 那一句是顶小的一个说的，而且眼睛看着我，他们就都笑了起来：可见一定是一句坏话。”他于是转脸对着学程道，“你只要到‘坏话类’里去查去！” | 例の言葉は、そのなかのいちばん小さいのが口にしたんだ。それも、おれのほうを見ながら言って、そのとたん、みんなで大笑いしたんだから、きつと悪口にちがいない。そこで学程のほうへ顔を向けかえていった。「お前は、『悪口の部』だけ調べればいい!」 |
| 招儿带翻了饭碗了，菜汤流得小半桌。四铭尽量的睁大了细眼睛瞪着看得她要哭，这才收回眼光，伸筷自去夹那早先看中了的一个菜心去。可是菜心已经不见了，他左右一瞥，就发觉学程刚刚夹着塞进他张得很大的嘴里去，他于是只好无聊的吃了一筷黄菜叶。 | ///招児が茶碗をひっくりかえしたため、スープがこぼれて、食卓の半分近くがよごれた。四銘は、細い目を思いきり開けてにらみつけ、子どもが泣きそうになってから、やっど視線をおさめた。それから箸を伸ばして、さっきから目をつけていた白菜の芯をつまもうとした。が、白菜の芯は、もうなくなっていた。左右をチラと見渡すと、ちやうど学程が、箸につまんでアングリあけた口のなかへ押しこもうとすところであった。そこで仕方なく、おもしろくない顔をして黄色い菜っぱのほうを口に入れた。 |
| 胖小孩本是注视着小學生的脸的，于是也不禁依了他的眼光，回转头去了，在那里是一个很胖的奶子，奶头近有几枝很长的毫毛。 | デブの小僧はそれまで小学生の顔に目を注いでいたのだが、このとき、思わず彼の視線につられて、うしろを振りむいた。そこには、ぼってりした乳があって、乳首のまわりには、おそろしく長細い毛が数本生えていた。 |
| 长子弯了腰，要从垂下的草帽檐下去赏识白背心的脸，但不知道为什么忽又站直了。于是他背后的人们又须竭力伸长了脖子；有一个瘦子竟至于连嘴都张得很大，像一条死鲑鱼。 | フッポは腰をまげて、垂れさがった麦藁帽の下の、白の袖なしの顔を鑑賞しようとしたが、どうしたわけか、突然また、腰をまっすぐにした。そのため、彼の背後にいた連中は、こんども思いきり首を伸ばさなければならなくなった。一人のヤセッポチなど、口まであんぐり開いて、まるで死んだ鱈そっくりであった。 |
| 待到重归平静，胖大汉再看白背心的脸的时候，却见白背心正在仰面看他的胸脯；他慌忙低头也看自己的胸脯时，只见两乳之间的洼下的坑里有一片汗，他于是用手掌拂去了这些汗。 | ふたたび平静になって、肥大漢がまた白の袖なしの顔へ目をやったところ、白の袖なしのほうも、顔をあげて彼の胸もとを見ていた。彼はあわてて、目を伏せて自分の胸を見た。二つの乳の間のくぼみに、ベタリ汗がたまっていたので、彼は手でその汗をぬぐった。 |
| 高老夫子一跑到贤良女学校，即将新印的名片交给一个驼背的老门房。不一忽，就听到一声“请”，他于是跟着驼背走，转过两个弯，已到教员豫备室了，也算是客厅。 | 高先生は賢良女学校にかけつけると、さっそく印刷したばかりの名刺を、守衛のせむしの老人に差し出した。しばらくして、「どうぞ」という声があったので、彼は、せむしのあとについて行った。二回ほど角を曲がると、そこが応接室も兼ねた教員控室だった。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| 他似乎听到背后有许多人笑，又仿佛看见这笑声就从那深邃的鼻孔的海里出来。于是也就不好意思去抚摩头上已经疼痛起来的皮肤，只一心跑进教员豫备室里去。 | 背後で、大勢の笑い声がきこえるような気がした。しかもその笑い声は、あの深みをたたえた鼻の穴の海から出ていて、それがものあたりに見えるような気がした。で、すでに疼き出している頭の皮膚をさするのまあい悪いような気がして、たすまっしぐらに教員控室へ駆けこんだ。 |
| ///听说有一回，三良发了红斑痧，竟急得他脸上的黑气愈见其黑了；不料那病是轻的，于是后来便被孩子们的祖母传作笑柄。 | ///聞けば、三良が猩紅熱にかかったときなど、彼はあわてふためいて、黒い顔がますますすずす黒くなったそうである。だが、その病気は思ったより軽かったので、後になって、子どもたちの祖母から、笑い話の種にされたということである。 |
| 这仇恨是历了三月之久才消释的。原因大概是一半因为忘却，一半则他自己竟也被“天真”的孩子所仇视了，于是觉得我对于孩子的冒淡的话倒也情有可原。 | このしこりは、三月ものあいだつづいて、やっと解消された。おそらくその原因は、一半は忘れたためだろうが、一半は、彼自身がこの「無邪気」な子どもに敵視さされてしまい、そこで私の子どもに対する冒■18の言葉も酌むべきところがあると気づいたからだろう。 |
| 虽然他向来一有钱即随手散去，没有什么贮蓄。于是我便决意访问连去，顺便在街上买了一瓶烧酒，两包花生米，两个熏鱼头。 | これまでも金はいるとすぐ右から左へ使ってしまった、貯えなどというものはないにしても、そこで私は、連安を訪ねてみようかと決心した。ついでに街で、焼酎を一本、落花生を二袋、魚の燻製を二尾、買いとめた。 |
| 这虽然并不使我“倒抽一口冷气”，但草草一看之后，又细看了一遍，却总有些不舒服，而同时可又夹杂些快意和高兴；又想，他的生计总算已经不成问题，我的担子也可以放下了，虽然在我这一面始终不过是无法可想。忽而又想写一封信回答他，但又觉得没有话说，于是这意思也立即消失了。 | この手紙は、私を「嘩然」とさせはしなかったが、ざっと眼を通してから、もう一度じっくり読みかえてみて、やはりいくらかは後味がよくなかった。しかしそれは、同時にいくらかは小気味よさと興奮をまじえたものであった。それに、彼の生活が問題でなくなったことは、私の肩の荷もおりたというふうにも考えられる。もっとも、この問題では、私ははじめから終りまで何の役にもし立たなかったが。ふと、私は、彼に返事を書くかとも思った。しかし、べつに言うべきこともないように思えて、この気持もすぐに消えてしまった。 |
| 许久之后，信也写成了，是一封颇长的信；很觉得疲劳，仿佛近来自己也较为怯弱了。于是我们决定，广告和发信，就在明日一同实行。 | 長いことかかかって、手紙も書き上がった。かなり長い手紙になり、すっかり疲労を覚えた。最近、自分も大分気が弱くなったようだ。そこで、広告と発信は明日いっしょに実行することに決めた。二人は期せずして同時に手足を伸ばした。 |
| 它的食量，在我们其实早是一个极易觉得的很重的负担。于是连它也留不住了。 | 犬に食わせる餌は、僕たちにとって、じつは早くから、目に見えて重大な負担になっていた。かくて阿随さえも飼っておけなくなった。 |
| 月生便知道他很着急，因为向来知道他虽然相信西医，而进款不多，平时也节省，现在却请的是这里第一个有名而价贵的医生。于是迎了出去，只见他脸色青青的站在外面听差打电话。 | 月生は、彼が非常にあわてていると思った。なぜなら、かねて彼が西洋医を信頼していることは知っていたが、収入も少ないし、ふだん倹約もしているほどなのに、いま呼んでいるのが当地でも有名な、しかも料金の高い医者であったからである。そこで立って行ってみると、彼は顔色をまっ青にして、小使が電話を掛けるのをきいていた。 |
| 他高兴地刚在问靖甫时，普大夫已经走向书桌那边去了，于是也只得跟过去。只见他将一只脚踏在椅子上，拉过桌上的一张信笺，从衣袋里掏出一段很短的铅笔，就桌上唵唵地写了几个难以看清的字，这就是药方。 | 彼がうれしくなって靖甫にそう聞いたとき、プティス先生はもう机のほうへ行っていた。そこで彼も仕方なくあとを追った。医者は、片足を椅子にのせて、机の上の便箋をひっぱり出すと、ポケットからちびた鉛筆を取り出して、机の上でサラサラと読みとりにくい字を何行か書いた。それが処方箋であった。 |
| “七大人？”八三的眼睛睁大了。“他老人家也出来说话了么？……那是……。其实呢，去年我们将他们的灶都拆掉了，[2]总算已经出了一口恶气。况且爱姑回到那边去，其实呢，也没有什么味儿……。”他于是顺下眼睛去。 | 「七大人が？」八三は眼をまるくした。「あのご老体も口をききなさるのかね？……そりゃ……。たがね、こっちは去年、連中の竈を残らず叩きこわしてやったんだから、言ってみりゃ、腹いせはすんだようなものじゃないか、それに、愛姑があつちへ戻ったところで、實際の話がさ、いいことはあるめえ……」そう言って彼は、眼を伏せた。 |
| 青春之歌 (原文) | 青春の歌 (訳文) |
| 半天，他呵呵了两声，不知说的什么，于是女学生也不再出声。 | しばらくすると、口の中でなにやらもぐもぐいったが、聞きとれなかった。それで女子学生も、それ以上たずねるのをやめた。 |
| 祖父因为年老多病需要孙女的照顾，也不愿意孙女离开他，于是祖孙俩就相依为命地活下来。 | 病身の祖父も、孫娘がじぶんの手とを離れるのを望まず、このためにふたりは、互いに身をよせあうようにして、暮らしてきたのだ。 |
| 想不到徐凤英大发慈悲，她替小道静脱下破棉袄一看：只见套在棉袄里面的小褂子上的虱子，密密麻麻地已经滚成了蛋蛋，要拿也拿不清。于是她又恼火又慷慨地一下子把这小褂子填入了正在熊熊烧着的洋火炉里，一阵劈劈拍拍的响声，无数的虱子就和褂子一齐消灭了。 | 思いがけなく、徐鳳英は滋愛深くって、道静のきているおんぼろ綿入れをぬがせてくれた。みると、綿入れの下にきているひとえには、びっしりしらみがついていて、とてとりつくせるものではなかった。そこで徐鳳英は頭にきたように、思いきりよく、そのひとえを燃えさかるストーブに、投げこんでしまった。ばらばらとはぜる音とともに、無数のしらみは下着とともに灰になった。 |
| 一个夜晚，道静已经在“下房”睡着了，弟弟打破了一个母亲心爱的花瓶，他却推在道静身上。于是道静在睡梦中突然被一阵剧烈的疼痛惊醒， | ある晩のこと、道静はすでに「使用人部屋」で眠っていた。母親の秘蔵の花瓶を壊してしまった弟は、それを道静のせいにした。そのため道静は、夢の中から、とつぜん、はげしい痛み呼び起こされた。 |
| 她立时明白了是怎么回事，于是就咬紧牙关，顽强地准备着一切痛苦的袭来。 | なに事が起きたかを理解したとき、道静は歯をくいしばって、辛抱強く襲いかかる苦痛をこらえた。 |
| 到了民国，这位善于追赶潮流的“大学士”，又赶上了办教育吃香的时候，于是他很快成为教育家，借了“办教育”为名，向清朝王爷手里用低价买了大批“跑马占圈”的土地。 | 民国になると、この時流に乗じることのうまい「大学士」は、教育事業が金もうけになるご時勢によって、いち早く教育家に变身し、「教育事業」をやる名目で、清朝の貴族から、ただみたいな値段で「騎馬園」の土地を入手した。 |
| “这位是胡局长，”母亲指着那个坐在上首的瘦瘦的西服男子给道静介绍，“这就是小道女静。”她眯起眼向那黄瘦的男子恭顺地又像夸耀地一笑时，道静心里突然感到了不自在。于是她赶快扭转身子走到里屋去，再也听不到母亲后来又说了些什么话。 | 「こちらは胡局長さん」母親は、上座に坐っている瘦せた顔色の悪い背広の男を、道静に紹介した。「これが娘の道静ですのよ」+++だが、母親が腫れぼったい目を細めて、その顔色の悪い瘦せた男に対して、へつらうように自慢臭いをして見せたとき、道静は、とつぜん、いやな感じがして、さっと身をひるがえすと、奥の部屋へたち去ってしまった。背後から母親の声が聞えてきたが、なにをいっているのか、耳にははいらなかった。 |
| 看见女儿低着头不做声，以为女孩子害羞，肯了也不愿说。于是徐凤英高兴得眯着眼睛，笑着，滔滔地开了话匣子： | かの女は、娘がうなだれたまま、返事をしないのを見て、きつとはずかしがっているのだ、心では同意してるが、口にだしてはいえないのだと思った。そこで、大喜びで、また、目を糸のように細め、笑いながらまくしたてた。 |
| 孤苦无依的小道静，在冬天的长夜，常常偎在王妈的怀里，听她讲许许多多动听的民间故事。其中，也讲到过秀妮的故事。但是她不敢违背徐凤英的命令，没有说出那个欣赏的、被地主逼迫做了小老婆的姑娘就是小道静的妈妈。现在，善良的老妈妈，再也忍耐不住了，于是告诉了道静关于秀妮的全部故事。 | 天涯孤獨の幼い道静は、冬の長い夜に、いつも王媽のふとりに抱かれて、民間の伝説や物語りを、いろいろと話して聞かせてもらったものだった。その中には、秀■の物語りもはいっていた。だが、徐鳳英の命令にそむく勇気のない王媽は、その地主の手ごめに会って妾にさせられた柴刈り娘が、幼い道静の生みの母であることを、一度もあかしたことがなかった。だがいまとっては、この善良な年寄りには、これ以上黙っていることができず、秀■についての一部始終を、洗いざらいうちあけてくれたのである。 |
| 整整一天半夜，她没有吃过一口东西，这时觉得又饿又渴，于是，她丢下行李急急地沿着林间小路向村里走去。 | 思えば、まる一日、なにもたべていないのだ。腹の虫がぐうぐういい、のどはからから、かの女は荷物をそこへ置き放しにしたまま、大急ぎで林の中の小道を、村のほうへとかけた。 |
| 女人的手不动了，她直直地瞪大眼睛瞅着道静，木然的没有表情的神情，反而比哀哭更凄惨。“老家也回不去，要着饭，给打鱼的补网……”这女人似乎感觉到站在她面前的这个女学生，还不嫌她脏，不嫌她穷，于是喘了口气，轻轻摇晃着将要睡着的孩子，无力地说： | 女の手は動かなくなり、またもや、じっと道静を見つめた。泥人形のように表情のないその顔は、大声で泣き叫ぶよりも、もっと深刻な悲しみをあらわしていた。+++「故郷には帰れねえで、大食をしたり、漁師の網をつくらしたりして……」+++この女は、目のまえの女子学生が、じぶんのむさくるしさや、貧しさをいやがらないのを感じて、ほっと安堵の吐息をつき、眠りかけた赤ん坊をゆさぶりながら、力なくことばをつづけた。 |
| 现在，他已看出道静对他有了感情，而且很真挚。因此他就想向她谈出心中的秘密。可是，他犹疑着，怕说得不好反而坏了事。于是他忐忑不安，望着道静朴素的白衣，心里像燃烧似的呆想着： | いま、かれは道静がじぶんを愛していること、しかも、とても真剣なことを見てとった。いまこそ、心中の秘密をうちあけるべきだと思ったが、かれはためらった。うまくいえなかったら、かえって壊してしまうと思ったからだ。そこで、かれは不安そうに、道静の質素な白衣を見つめ、胸を燃やししながら、茫然と考えこんでいた。 |
| 道静扭过脸来，发现余永泽那对亮晶晶的眼睛又灼热地望着自己，她突然也感到了一阵激烈的心跳。于是赶快蹲下身去摘起路旁的一朵小野花。 | 道静は顔をあげ、余永沢の両の目が、焼きつくようにじぶんを見つめているのを知ると、とつぜん、胸がはげしく波うつのおぼえた。かの女はあわててしゃがむと、路傍の小きな野花を一輪つんだ。していった。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|---|
| 但是余永泽的父亲和余永泽本人是不可得罪的，大学生呀，这是村里的圣人，知道他将来要做多大的官。于是只好迁怒于道静。 | ///だが、余永沢の父親と、余永沢本人の機嫌を、そこねるわけにはいかなかった。なんといつても相手は大学生、大学生といえは、村では聖人扱いだ。将来どんな偉い役人に出世するか、はかり知れないのだ。そこでかれは、ふんまんを道静にぶつけたのである。 |
| 余永泽和王晓燕虽然都写信劝她不要这样消沉，劝她快活起来；她自己也有时惊异自己小小年纪怎么竟有了这种可怕的衰老的心境。可是，人生——展示在她面前的人生，是那么阴惨灰暗，即使和余永泽的初恋，也没有能够冲淡这种阴暗的感觉。于是，她依然陷在忧郁的情感中而无力自拔。 | ///ふたりは、そんなに消極的になるな、もっと快活になれと、いつもはげましてよこした。ときには、かの女自身でさえ、この若さでどうしてこんなに恐ろしく、老いこんだ心境になってしまったのだろうと、驚くこともあった、しかし人生は——かの女の眼前にひらけている人生は、真実、このように陰惨であり、灰色だったし、余永沢との初恋も、決してこういう思いを、やわらげてはくれなかった。かの女は、依然として、憂うつな感情にひたつたまま、自力でそこから、ぬけ出すことができなかった。 |
| 这个拱手把东北让给帝国主义的卖国计划，更加激怒了人国人民，于是，工人罢工，学生罢课，并且纷纷跑向南京去提出抗议。而这次北京大学更首先打起了示威的大旗，也奔向了南京。 | この手をこまぬいて、東北を帝国主義にゆずりわたそうとする売国計画は、全国人民のはげしい憤りを買った。労働者はストライキをし、学生は同盟休校をして、続々と南京政府に抗議した。北京大学の学生は、このとき、先頭にたつてデモの大旗をうち立て、南京へ向かったのである。 |
| 林道静虽然很爱余永泽，但是，就是不愿意很快和他结婚。余永泽和她谈了几次，几次都碰了钉子。这个问题使他大伤脑筋。于是有一天，他忽然病了，蒙着头躺在床上，课也不去上。道静来看他，焦急地问： | 林道静は余永沢を愛してはいたが、急いで結婚しようとは望んでいなかった。余永沢は何度も結婚の話を持ちかけたが、いつも道静が受けいれるところまでいかなかった。そこで、ある日のこと、かれは布団をかぶって寝こんでしまい、大学も欠席してしまった。会にきた道静が心配してたずねた。 |
| 道静呆呆地看着他——许久功夫才明白他说的是什么话。于是她再也压不住自己的激动，紧紧捏住他的双手说： | 道静は、心臓の動きがとまったように、かれを見つめた——しばらくたってから、やっと、かれがなにをいっているのかを理解した。湧きあがってくる感動をおさえることができなくなって、道静は力をこめて、かれの両手を固く握りしめた。 |
| 她呢，她忽然丢掉了过去的矜持和沉默，一下子，好像对待老朋友一样把什么都倾心告诉了他。尤其使她感觉惊异的是：他的每一句话或者每一句简单的解释，全给她的心灵开了一个窍门，全能使她对事情的真相了解得更清楚。于是她就不知疲倦地和他谈起来。 | 道静も、これまでの矜持と沈黙をかなぐり捨て、旧友に対するように、胸の中にあることを洗いざらいうちあげた。とりわけ、驚かされたのは、かれのひとつひとつの質問や簡単な解説が、すべて、かの女の心の窓をひらき、物事の真相をさらに明瞭にしてくれたことだった。だから、あきることなく、かれと話を続けることができた。 |
| 她红着脸不知怎样来表达自己的心情。沉默了一下，看见卢嘉川并没有注意到她的慌乱和激动，于是她才完全镇静下来，开始向他报告起她所读的书，这些书所给与她的影响，以及她心情上的变化来。 | かの女は顔をあからめ、じぶんの気持をどう表現してよいか迷った。しばらく口をつぐんで、芦嘉川がじぶんのおちつかないようすと、心のたかぶりに、少しも気がつかないのを知ったかの女は、やっと安心して、いままで読んだ本、それらの本があたえた影響、じぶんの気持の変化などを話しはじめた。 |
| 这里的环境是安谧的，空气是柔和的，这里没有斗争，没有喧嚣和呼喊，人们默默地读着书，谁都是互不相扰。于是，每每当他心情极端恶劣时，他就到这里埋头坐上几点钟，厚厚的线装书一翻就什么都忘掉了。 | この環境は静かで、空気はなごやかだった。ここには闘争がなく、喧嘩もい争う声も聞えず、人びとはただ黙々と読書をつづけ、互いに相手の邪魔をしないように、静かに読書に没頭していた。ぶ厚い和綴本のページをめくっていると、すべてを忘れることができた。 |
| ///他想跑得离操场远些，可是一想，人自私也没子弹跑得快，于是他一蹶就蹶回到图书馆的院子里，三步两步奔向了阅览室的大房间。 | ///運動場からだいたい離れたところまで逃げのびてから、ふと気がついた。いくら速く走っても、銃弾の早さにはかなわない。そこで今度は、大急ぎで図書館の庭にかけこみ、足も地につかぬ思いで、閲覧室に走りこんだ。 |
| 宪兵们乱翻一气。床上、床下，小小的屋子哪里能藏什么人，于是屋门砰地一响，他们又一窝蜂似的闯了出去。 | 憲兵たちは、ベッドの上、ベッドの下をあちこちひっくり返したが、ちっぽけな部屋の中のどこに隠れる余地があろう。そこで、かれらはばたんと乱暴にドアをしめると、出てしまった。 |
| 他想起整整闹腾一天还没吃过一点东西，笑了笑，顺手摸摸口袋，身上只剩下两毛钱，可是还需要用它吃上两天饭，于是在又经过一个小烧饼铺时，他只买了三个小烧饼揣在衣袋里。肚子咕噜噜地，真想吃，望望自己笔挺的西装，他摇摇头又忍住了。 | 考えてみると、朝からなにもたべていないのだ。笑いながらポケットをさぐると、たった二十銭しか残っていない。だが、これで二日間、もちたえなければならぬのだ。そこでかれは、そのつぎに、もう一軒の小さな焼餅屋のまえを通ったとき、小さな焼餅を三つ買って、ポケットにつこんだ。腹はぐうぐう鳴っていたが、りゅうとした背広をきこんでいるまえ、辛抱するよりほかなかった。 |
| 当负责联络的交通员走来告诉他们即刻到天桥大马路上去集合时，一阵风似的，他们从小胡同里窜了出来；同时，别的小胡同里也窜出了许多人。于是人群迅速汇合成了兴奋的纵队。 | レポが、ただちに天橋通りに集合と伝えに来ると、かれらは一陣の風のように路地からとびだした。と同時に、ほかの路地からも、たくさんの群衆がいっせいに出てきた。かれらは、たちまち意気さかんな隊伍を組んだ。 |
| “不，他爱我，我怎么能忍心离开他。”道静感到不能再开玩笑，白莉莘是在真心实意地和她谈话。于是她摇摇头低声回答。 | “いいえ。あの人はわたしを愛しているわ。わたしに、どうして別れることができてる？”白莉莘が本気で話しているのを感じると、道静もごまかしてはいられなくなった。かの女は首をふると、小声で答えた。 |
| 可是她可怜他，这种感情，像千丝万缕缠着她，同时，她又认为革命者是不应该关心个人的问题的，于是她忍住了矛盾的痛苦，忍住了一切的不满，希望就这样和余永泽凑合下来。 | だが、かの女は余永沢をあわれんでいた。この感情はくもの糸のように、いくえにも、かの女の身体にまつわりついていた。同時にかの女は、革命家は個人的問題を気にすべきではない、と考えていた。このためにかの女は、矛盾の苦痛とすべての不満を耐えしのび、いまの状態のまま余永沢と一緒に暮らしていこうと望んでいた。 |
| 但是，他不能这样做，他必须克制自己。于是他拉住她的手，像个亲切的兄长，严肃地说道： | だが、それをしてはならない。かれは強い意志の力でじぶんをおさえ、道静の手をとると、親切な兄のように、おごそかにいった。 |
| 道静不知怎样回答他好。在窘急中她想：什么事都不应当隐瞒自己的爱人，何况这是正大光明的事。于是她附在余永泽的耳边，放低声音说： | 道静は、どう答えていいか、わからなかった。窮地におちいりながら、かの女は考えた。どんなことだって、じぶんの愛人をだましちやいけぬ、それに、これは公明正大なことではないか——そこで、かの女は、余永沢の耳に口をよせて、小声でささやいた。 |
| 工作任务急，而他又怕余永泽一下子回来了，材料就无法写了。终究余永泽还是没等他写完就回来了。于是，另一种性质的激烈冲突又展开了。 | 任務は急を要し、それにもしも余永沢が、とつぜん戻ってきたら、文章を書き終えられなくなるからだった。はたして、余永沢は、かれが文章を書き終えないうちに、家に戻ってきてしまった。そこで、また一種の、性質の異なる激烈な闘争を、くりひろげざるをえなくなった。 |
| 他坐着挂着窗帘的小汽车来到了一个森严的大院子里，接着走过两层院子，他又被带进一间完全出乎他的意料之外的漂亮的房间里。一个便衣西装的年轻特务让他坐在沙发上就走了出去。于是这间屋子便只剩下一个人。 | かれは、カーテンの垂れた自家用車に乗せられて、いかめしい大邸宅に連れていかれた。中庭をふたつ通りすぎると、思いもかけない美しい部屋が、そこにあった。背広をきた若い私服の特務が、かれをソファに坐せると、すぐに出て行ってしまった。そこで、その部屋には、かれひとりが残された。 |
| ……由于渴的刺激，他似乎明白了自己的存在，于是他睁开眼睛，向昏沉的漆黑的牢房里茫然地望着。 | かわきの刺激によって、かれはじぶんがまだ生きていることを、たしかめたようなものだった。かれは目をひらき、静まりかえった、まっ暗な監房の中を、茫然と眺めた。 |
| 他不知自己怎样蠕动到第二面墙壁旁边的。他又照样敲了黑沉沉的冷森森的墙壁，也照样没有得到回答。于是他转向第三面——也是最后的一面。 | どうしてもう一方の壁ぎわまで、這いよっていったのか、かれ自身にもわからなかった。もう一度、暗闇の冷たい壁をたたいたが、やはり回答はえられなかった。そこで、かれは、第三の壁——最後の壁に向かった。 |
| “不烧掉它们又怎么办呢？”晚上她想到了这个问题。他不会再来拿，总放着有危险，而且没意义，于是她想起了高尔基的《母亲》中的母亲维拉索娃来：她带传单到工厂，把它散给工人们…… | 焼きすてないとしたら、どうすればいいのかしら？++夜になると、そのことが頭に浮かんだ。かれはもう取りには来ないだろう。このままにしておいては危険だし、だいいち、意味がなかった。そこで、かの女はゴリキーの『母』の中ででくくる、母親ニエロヴナのことを思いだした。ニエロヴナはピラを工場へもちこみ、労働者の中にまき散らした…… |
| 呵，这是些多么难忘的话呵，她牢牢地记住了它，她要无畏地斗争下去。于是她忙碌地准备着一切。 | ああ、それは、なんと忘れがたいことばだろう。そのことばを固く心に秘めて、かの女は、恐れることなく闘争しつづける決心をした。あわただしくすべてを準備した。 |
| 接着，根据她的经验，她明白了——“这准是去会相好的呀！”于是她向道静斜眼一笑，嘴巴对准了她的耳朵。 | ///だが、すぐ、じぶんの経験から、ひとりで呑みこんだ——こりゃきっと、いい人に会いに行くんだよ、そこで道静に向かってウインクすると、耳もとに口をよせてささやいた。 |
| 自从和余永泽分开了，道静就住到沙滩附近的一个小公寓里。她的生活比较自由了，就用全副精神放在和革命同志的联系上。为了打听许宁的消息，她去找了许老太太。于是她和许宁的关系就联系上了。 | 余永沢と別れてから、道静は沙滩附近の小さな下宿に移り住んだ。生活が比較的自由になったので、かの女は全精神を、革命事業と同志との連絡に集中できるようになった。許寧のようすを知るために、かの女は、その母親を訪ね、許寧との連絡をつけた。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|--|
| 知道没有逃脱的可能，她反而镇静了，于是站在院里，静静地等待着将要发生的事。 | 逃げるすべのないことを知ると、かの女はかえっておちついてきた。その場にたざずんだまま、静かに、つぎに起こるであろうできごとをまつた。 |
| 她想了想下了决心，于是改变了口气。 | かの女は、考えたすえ決心し、改めて、口調を変えた。 |
| “也许，他也能替我想出办法来？”——不过，也许太晚了。”道静坐在床边又胡思乱想起来，意忘掉就要逃走的事。突然，她看见了放在地上的水果篮，这才想起了应该准备逃走的事。于是她不再想下去了。 | 「もしかしたら、かれも方法を考えてくれるかも？——でも、まにあわないわ、きつと」+++道静はベッドに腰をおろして、またもやあれこれ思案しだし、逃げることさえ忘れてしまった。ふと、床に置いてある果物籠が目につくと、やっと逃げる用意をしなければならぬことを思いだした。そこで、それ以上考えることをやめて、 |
| 当天下午，完了功课，道静在屋里待不下去了，她一个人竟跑到很远的西关车站去接江华。等到走到那儿，她才发觉自己的荒唐——就是那位江华真的来了，她也并不认识呀。于是她又怏怏地跑了回来。 | 「その日の午後、授業を終ると、道静は部屋にじっとまっていたらなくて、ひとりで遠い西関の停車場まで、江華を迎えにいった。そこまでいってのはじめて、かの女はじぶんのうかつさに気がついた——ほんとに、その江華が来たとしても、どうやって見つけたらいいのか。そこでかの女は、うつうつとしてひき返した。 |
| “江华。从徐辉那里来。”那人点点头，小声说了上面的话。于是道静抢过他手里的小提包就把他领到自己的房间里。一进屋她立刻带上房门，转过身附在江华的耳边像对熟人一样亲切地小声说： | 「江華です。徐輝のところから来ました」+++その男は、うなずきながら、小声で、それだけ答えた。そこで道静は、かれの手から手揚げかばんをもぎとるようにして、先にたつてじぶんの部屋に案内した。部屋にはいると、すぐさま、ドアをしめ、ふり返って、まるで親しい友人に対するように、江華の耳もとで小声でささやいた。 |
| 察北同盟军失败，他回到北平找到河北省委的关系，于是他转到保定一带来搞农民运动。 | 察北抗日同盟軍が旗あげすると、かれは張家口にかけつけて、大隊の軍事指揮者になった。察北同盟軍が失敗すると、ふたたび北平に帰り、河北省委員会と連絡をつけ、保定一帯の農民運動を組織した。 |
| “同志，我在保定二师参加过学潮，多少有点经验。不必犹豫了，咱们就商量商量怎么进行吧。”因为他讨厌王彦文一套庸俗的、拉拉扯扯的作风，又看到她一些毛病，于是坚决主张打倒她和伍雨田两个人。 | 「同志、ぼくは保定の第二師範学校で、学生運動に参加したこともあるし、いくらか経験ももっている。ためらうてはだめだ。さあ、どうやるか相談しよう」+++かれは王彦文の俗っぽさ、一部の教職員をろらくするやり口を嫌っていたし、なにかうしろめたい事をやっているのも、いくらか見ぬいていた。そこでかの女と伍雨田のふたりを打倒することを、断固として主張したのだった。 |
| 道静没的说了，她觉得自己也太过于激动了。于是竭力使自己冷静下来，然后用力握住赵毓青的手，用那双激动的眼睛静静地注视着这年轻的战友。 | 道静はそれ以上、なにもいえなくなってしまった。かの女は、じぶんがあまりにも、興奮しすぎていたと思った。それで、懸命にじぶんをおちつかせると、力をこめて趙毓青の手を握りしめ、たかぶった感情をこめた目で、じつとこの若い戦友を見つめた。 |
| 道静睁大乌黑的眼睛瞅着姑母的脸。从姑母那慈祥而又坚定的声音里，她感到一种力量，一种非听从不可的力量。于是二话没说，又换上她自己的衣服就和姑母站起来走了。 | 道静は、黒い腫を大きくひらいて、お婆さんの顔を見つめていた。お婆さんの愛情のこもった、しかもきっぱりとした口調から、かの女はある種の力を感じとった。絶対にさがることのできない力。そこでなにもいわずに服をかきかえと、お婆さんに従って小屋を出た。 |
| 王先生似乎了解道静的心情，这么一个城市长大的女孩子，第一次到陌生的农村财主家去生活，况且还处在险恶的敌人包围中。于是就微笑着安慰道静： | 王先生には道静のその気持が、わかったように見えた。こんな都会育ちの娘が、はじめて見も知らぬ、農村の地主の家で、生活するのだ——しかも凶悪な敵の包围の中——。そこで、微笑を浮かべると、道静をなぐさめた。 |
| 她忽然想陈大娘并不像一个奸诈、诡谲的女人，为什么不可以……王先生不是还嘱咐她，叫她在长工当中做些工作吗，这老女人也是个受苦人呀。这样打好了主意，于是，第二天的晚上，道静就轻轻走到陈大娘屋里和她聊起天来。 | かの女は、とつぜん、陳ばあやが悪くない、人をおとしめるような女ではない、それならば……と思った。王先生は「屋敷に雇われている人たちに工作しなさい」といったではないか、あのばあやも苦しみをなめている仲間なのだ！そう考えたかの女は、三日目の夜、気軽に陳ばあやの部屋に出かけて行って、世間話をした。 |
| 道静咯咯地笑了。她想起了莫里哀的喜剧《悭吝人》。一个铜板，对于这拥有几十顷土地的大地主都是一件大事，更何况少要他两块大洋，那他一定会高兴了。于是道静又对姑母说：“姑母，您一来，我心里可痛快多啦。我照着您的意见，做什么都行。可是，我真不愿意在这个地方待下去——我待在这儿一点用处也没有。” | +++道静はふきだした。急にモリエールの『守銭奴』が、頭に浮かんできたからだった。たった一枚の銅貨でも、この数十頃の土地をかかえている、けちな大地主にとっては、惜しくてたまらないのだ。だから二元も値下げしてやったら、かれは喜ぶにきまっている。そこで道静は、お婆さんに向かってこういった。+++「お婆さん、お婆さんが来ると、わたし、胸がすつとするわ。お婆さんのいうことなら、なんでもやるわ。だけど、ほんとうは、ここにはいたくないんです——こんなところにはいたって、なんの役にもたないんですもの」 |
| 这回道静半天不出声了。姑母一句话好像当头一棒，使她感到热辣辣地刺痛，可是，也使他清醒过来。她忽然觉得自己身上很脏很臭，同时，又觉得十分委屈。因为这又脏又臭的衣服，并不是她要穿，而是那个地主家庭给她穿上的。于是道静不出声了。 | お婆さんのこのひことばは、晴天の霹靂だった。どかんと頭をどやされた思いだった。だが、そのことがかの女を冷静にさせた。じぶんの身体の汚れと臭いを、いまさらのように思い知らされると同時に、内心でかたきり不満だった。というのは、その汚れた臭い服は、決して、じぶんから望んできこんだものではなくて、地主という家庭が、かの女にさせたのだったから……道静は黙りこんでしまった。 |
| ///教完了学，她又领着文台到各处转游起来。她想找许满屯，可是许满屯不在。这些天他不是出车就是在外面忙着什么，很少见他在宋家呆着。于是，她便去找郑德富。 | 授業を終えると、かの女はまた文台を連れて、あちこちぶらついた。許満屯に会いたかったのだが、かれはいなかった。この数日というもの、かれは馬車をひいているか、外での用事が忙しらしく、めったに屋敷の中になかった。そこで、道静は鄭徳富を訪ねることにした。 |
| 她想这个穷苦的人，无论再给她多少难看的脸色，无论怎样瞧不起她，她都要忍耐，她要叫自己从心里爱他。于是，做好了一切精神准备，就出发了。 | この不幸な老人が、ふたたび、じぶんに対してどんな嫌な顔をして見せ、どんな輕蔑の目を投げかけようとも、それに耐え、ま心から、かれを愛そうと思ったからだった。そこで、充分な精神的準備をすると、出かけていった。 |
| ///道静想进屋里找人谈话，可是，她不敢，文台也不答应。于是，她就领着文台绕到这片屋后的一片水塘旁边。 | ///家の中に入っていて、だれかと話してみたいと思ったが、その、勇気がなく、文台も承知しなかった。そこで文台を連れて、その家並みにそって、裏手の沼のほうへ行ってみた。 |
| ///她猜来猜去猜到这可能是宋郁彬从中缓冲的缘故，于是她对宋郁彬的印象就更好了。 | ///いろいろ考えてみたが、これは宋郁彬があいだにたつて、事を荒だてないように、とり計らったためらしい。そこでかの女は、宋郁彬に対して、さらによい印象をもつようになった。 |
| 不过道静和陈大娘的关系却逐渐好起来。她相信陈大娘不会出卖她。也看出了这个老女人并不是真正忠实于宋家地主。于是她就在晚上常常讲一些阶级压迫的道理给她听。 | ただ道静と陳ばあやは、だんだん仲よしになっていった。この陳ばあや、じぶんを売ることはいえぬ、道静はそう信じた。そして、この年老いた召使が、地主の宋家に、心から忠実でないことも、見ぬけた。そこで道静は、晩になると、いつも支配階級が貧乏人を圧迫する道理を、陳ばあやに語って聞かせた。 |
| ///可是今年情况变了，各个集镇上打短工的雇工们全一口咬定割麦子四块洋钱一天，少一个也不干。这可惹怒了宋贵堂，他只出两块洋钱一天，多一个也不给。麦子眼看熟透了，再不割就要大批糟蹋在地里了，于是宋贵堂就派了许满屯等几个长工到远处去找短工。 | ///とところが、今年は情況が、がらりと変わった。市で雇い主を捜している日雇いたちは、口をそろえて、麦刈りは一日四元、びた一文欠けてもやらないと主張した。この事は、宋貴堂をかかんに怒らせた。かれは一日二元、それ以上は、一文も多く出せないがなげった。麦は目のまえで熟しきっている。急いでとり入れなければ、ほとんどが、だめになってしまう。そこで宋貴堂は、許満屯たち作男を遠くまでいかせて、日雇い集めに奔走させているというわけだった。 |
| 道静眼睛眨也不眨地望着高墙上，她希望通过上面这些人的动作，来看看农民群众的斗争情况。可是，房上的人渐渐都把枪放了下来，渐渐地还有人吸起烟来。一闪一闪的火光，使得道静好厌烦。正当这时她心里忽然一动。她想，为什么不想法子上去看看，也许上面可以看到外面的情况。于是看看身旁的陈大娘，轻轻说：“大娘，咱们也上去看看吧。” | 道静は、まばたきもしないで、高塀の上の人びとを見つめていた。かれらの動作をつうじて、農民大衆の闘争の情況を、読みとろうと思ったのだ。だが、みには、しだいに銃をおき、中には煙草を吸う者も出てきている。闇夜に明滅するその火花は、道静をいらだたせた。そのとき、かの女は、はっと思いついた。なぜ、口実をつくって、高塀の上に登ってみないのか？上に登れば、外のようすがわかるに違いない。そこで、かたわらにいる陳ばあやに小声でいった。「お婆さん。わたしたちも、登ってみましょうよ」 |
| 接着，乘着文台跑去捉蝴蝶的当儿，小虎子忽然从柴筐里拿出一个大大的白面馒头，一下子塞到道静手中。这孩子一句话也没说，可是那快活的小眼睛啊，道静看见它感动得浑身都发起热来……她想，为了虎子和小马，她也不应当气馁，她也应当坚持斗争下去。于是，尽管心情不安，她也立刻想法子去接近宋家的人。 | 文台が蝶を追ってかけたすきに、虎子はさっと柴刈り籠から、大きな白い饅頭をとりだすと、道静の手の中におしこんだ。虎子はひとこともいわなかったが、その快活な小さな瞳を見たとき、道静は感動のあまり、全身が熱くなるのを感じた。…そうだ、虎子と小馬のためにも、ふさぎこんでいるべきではない、じぶんも、断固として闘争しつづけなくては……かの女は、そう思った。そこで、心の不安をおさえて、さっそく、宋家の家族に接近した。 |
| 道静受过骗，现在对宋郁彬这些漂亮的言词已经不相信，但又不能露出不相信的样子。于是淡淡地问道：“宋先生，您的材料好几天不抄了，您回来了，还抄么？” | だまされた経験から、宋郁彬のこうした人聞きのいいことばを、道静は信じなかつたが、そんなようすを、おくびにもだすわけにはいかず、無表情のまま問いかけてみた。「若旦那さま、原稿整理の仕事、しばらく休んでましたが、帰られたので、また続けますか？」 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| 听说宋郁彬夫妇都不在屋，道静心里一动。她原来就估计，如果有名单一定在他们的卧室里。道静一直发愁的是没办法进这个屋。听说两口子都不在屋，这岂不是进去的好机会？事不宜迟，于是她立即对大娘说： | 宋郁彬夫妻が部屋にいないと知ると、道静の心は動いた。もしリストがあるとなれば、それはきっとかれらの寝室に違いない、と思っていた。さきから頭を痛めているのは、そこに入っていく手が、なかったためなのだ。夫妻がそろって留守だというのなら、部屋にしのびこむ、絶好のチャンスではないか。いまは一刻を争うのだ。そこで、かの女は陳ばあやにいった。 |
| “闺女，怎么啦？你怎么？……”她没有说出底下的话，但是道静却猜到了她的意思。她想了想，觉得现在只有破釜沉舟背水一战了。于是她拉着大娘干脆地说： | 「娘や、どうしたんだね？おまえさん、どうしたんだい？」+++あとのことばは、口からは出なかったが、道静は、かの女がなにを考えているのか、すぐ察しがついた。こうなつてはもう破れかぶれ、背水の陣をしくりよほかに手はなかった。それで、陳ばあやの手を握ると、ずばりといつてのけた。 |
| “■！”这时道静才恍然大悟。郑德富送出消息让她逃走，他在宋家已经不能呆了，为了她，他和她一样已经成了“逃犯”了。于是，道静紧紧靠近老人的身体——这时再也闻不见他身上的汗臭。 | 「あつ！」+++このときはじめて、道静はすべてがのみこめた。鄭徳富が、敵の情報を知らせてくれ、じぶんと一緒に屋敷をぬけた以上、かれはもはや、宋家に戻ることにはできないのだ。じぶんのために、かれは同様に「逃亡犯」になってしまったのだ。道静はびたりと、じぶんの身体を、老人の身体によせた。もう、あの汗臭い悪臭は、鼻をつかなかった。 |
| ///可是后来，在事实面前我渐渐明白啦，渐渐清醒啦——那好是好，可是离的太远、太渺茫啦。共产主义，要哪辈子才能实现呢？革命什么时候才能成功呢？……而且还要坐牢、要杀头，幸而不被捕，也是什么铁的纪律呀，个人无条件的服从呀，……于是我回过了头。” | ///でも、そのうち、現実がぶつかって、あたしもだんだんわかって、冷静になってきた—そりゃあ、もちろんすばらしいことだわ。でも、現実から離れすぎてるし、あまりにもつかまえておきかなくて。共産主義は、いつになったら実現するの？革命は、いつになったら成功するの？それに、投獄されたり、首をちよぎられたり、運よくつかまらなかつたとしても、やれ鉄の規律だの、絶対服従だのって……それで、あたしは宗旨を変えたの |
| “别生气！我真是舍不得你！咱们去去一会儿就回来不行么？”她一边说着一边接着道静的脖子走了出来。道静气得无可奈何，当着许多人又不好再同白莉苹争吵。于是，好像俘虏般，她被架到了一辆福特牌漂亮的汽车上。 | 「怒らないで！あたし、ほんとに、あなたと離れたくないの、一緒にいって、すぐ帰ってきましようよ？」+++そいういながら、道静の首に手をまわして、誘いだしてしまつた。道静は頭にきていたが、他の者でまえ、白莉苹と喧嘩するわけにもいかなかった。そこで、まるで捕虜のように、フォードのスマートな自家用車に連れこまれた。 |
| ///一想到他，使她立刻想到了囚在铁窗里的卢嘉川。要不是他，卢嘉川也许不会被捕的……想到这里，她的眼睛里不禁涌出泪珠。于是急忙掉头离开了这个小门。 | ///余水沢のことを思うと、すぐに頭にひらめいたのは、芦嘉川のことだった。余永沢がいなかったら、芦嘉川は、つかまらなかつたかも知れないのに……そう思うと、涙が泉のようにあふれ出てきた。かの女は、くりときびすを返して歩きだした。 |
| “我不能在这儿站到天亮呀！”道静靠在油漆剥落的暗红的大门上，望着寂静的夜空，无力地歪着头打着主意。“到哪儿去呢？住旅馆？不！去找徐辉么，也不行。……天不久就亮了，还是散散步，等亮了再回来吧。”于是她拖着疲乏的步子慢慢向西走去。离开宋郁彬家两天以来，她没有休息，也没有睡觉。 | ここに立ったままで、夜あかしてもできない？道静は、ベンキのおち暗紅色の大門によりかかかって、静まりかえつた夜空を仰ぎ、力なく首をかき上げて考えこんだ。どこへ？旅館に泊るか？それとも徐輝を訪ねていくか？それもだめだ……まもなく夜があける。やはりぶらぶらして、あかくなつてから、また戻つてこよう。……そう考えると、疲れた足をひきずりながら、のろのろと西のほうへ歩きだした。宋郁彬の家を出てから、ここ二日というもの、ずっと休息もとらなければ、眠つてもいない。 |
| 她清醒地感觉到：这不是梦，那微弱的声音就在她的附近旁。于是她站起身寻找起来。 | ///いい、その弱々しい声は、すぐそばから聞えてくるのだ。それがはつきりすると、かの女はたちあがつて、あたりを見まわした。 |
| 每当她们这样静静欣赏的时候，她们都会被祖国的悠久文化和伟大艺术深深感动着，于是各人浸沉在各人的想象中，两个人许久工夫都不出声。 | ふたりがここに立って、これらの風物を静かに觀賞するとき、いつも祖国の悠久な文化と、偉大な芸術に、深い感動をおぼえるのだつた。そしてふたりの娘は、それぞれの想いにふけりながら、ながいこと話をするのも忘れてしまつたのだつた。 |
| “一九三〇年，他们夫妇俩都先后被捕了。两个人最后都被押到苏州监狱。敌人捕到李伟非常高兴。他们知道他是共产党的重要人物，他所知道的关系必然多。于是就想尽各种办法威胁利诱逼他说出组织秘密。 | ///一九三〇年に、夫婦は前後してつかまてしまつたの。ふたりは、たらいまわされた末、蘇州監獄に送られたの。敵は李偉をつかまえたので、大喜び。奴らは、かれが共産党の重要幹部であることを知つたので、内部事情にこわいにとらんだのね。そこで、ありとあらゆる方法で、かれをおどしたりすかしたりして、組織の秘密をいわせようとしたの。 |
| 他挨过了打，从保定的下一个小站又偷偷坐上了下一趟火车。在他遇见徐辉以前的中午，才从西便门外跳下了火车。他疲乏地倒在郊外的野地里休息了一会，站起身来一看：自己的浑身上下黑得大不像样了，于是，他慢慢地走到荒凉的护城河边，渴极了，先用手捧着喝了几口河水，接着就用双手捧着河水洗起脸来。 | ///かれは、なぐられたあと、保定のつぎの小駅から、また、つぎの列車にもぐりこんでいた。徐輝に会うまえの五日の昼、かれはやつと、西便門外で列車をとび降りたのだつた。疲れきつていて、郊外の原っぱに倒れてひと休みしたのち、起きあがつてみると、身体中まっ黒で、見られたさまではない。そこで、のろのろと、淋しい護城河のほとりまで歩いてきた。渴ききつていたので、まず河水をすくって飲んだ。それから、両手と顔を洗つた。 |
| 这天，他下定决心，一定要和主子说了，于是在一张黄铜的单人床上，戴偷愣了一下，推推睡在他身边的一个并不年轻而且十分瘦削的女人，低声说： | ある日、かれは決心して、ボスにうちあげようと思った。それで黄銅のダブルベッドに横たわつたまま、しばらく考えこんでいたが、かたわらに寝ているあまり若くない、瘦せて肉のない女を手でゆり起こすと、小声でいった。 |
| 道静被这女孩子的纯真热情深深感动着。于是紧紧握住她的手，爱抚地望着她的眼睛说： | この女の子の純真な熱情に、道静は深く感動させられた。かの女は固く手を握りしめると、いとおいそうに、その目を見つめていった。 |
| ///这样一来，日寇要求撤退河北省于学忠、宋哲元的军队——这些军队立刻就奉令南下截堵红军去了；日寇要求河北省府迁出天津——省政府就立刻搬到保定去了；日寇要求封禁主张抗日救国的报章杂志，于是无数进步的发表过一些抗日言论的报纸杂志就立刻被封禁了。 | ///こうなると、日本帝国主義は、河北省の于学忠、宋哲元の軍隊の撤退を要求した——これらの軍隊はただちに命令に従つて、南へくだり、赤軍の進路を遮断した。日本帝国主義は河北省政府が、天津から移転することを要求した——省政府は、すぐさま保定へ移転した。日本帝国主義は、抗日救国を主張する新聞雑誌の発禁を要求した。そこで、少しでも抗日的な言論を発表した進歩的な新聞雑誌は、たちまちのうちに、せんぶ発禁処分にあつてしまつた。 |
| ///——例如《新生》杂志登了一篇《闲话皇帝》的文章，日寇说是冒犯了日本天皇的“威严”，于是主笔杜重远立刻被捕。 | ///——たとえば、雑誌『新生』が『皇帝漫談』という一文を載せたところ、日本帝国主義は、日本の天皇の尊厳を傷つたと称し、主筆の杜重遠は、ただちに逮捕されてしまつた。 |
| 大姐回过回头来向江华示意，于是江华顺手拿起床上的一叠洗熨好了的衣服，慢慢地、不慌不忙地向门外走去。 | あねさんはふり向くと、江華に目くばせした。江華は寝台の上においてあつた、すでに洗いがつた洗濯物の包みを取りあげると、ゆつくりと、おちつき払つて部屋から出ていった。 |
| 说到这里，她忽然发觉说话走了板——她的主人家正是只有三个闺女而没有儿子，可怎么能说是赔钱货！于是这灵巧的女人赶忙改了口：“乡下人就是这样，大地方的姑娘可就不是这样啦。像大小姐有学问有本领，将来孝顺父母养老送终这不是跟儿子一样吗？” | “そままでいうと、陳ばあやは、じぶんの話が変なほうへそれてしまつたのに、気がついた——かの女の主人の家には、娘が三人、男の子はひとりもない、娘がむだ銭使いだなんていうのは、まずいではないか。そこで、このかしこい召使は、すぐに口を改めた。+++「田舎ではそうですけど、大きな都会の娘さんば違いますからねえ。大きなお嬢さまのように学があり、腕のたつ方は、将来、親孝行して、死ぬまで面倒見てくれる息子と、なんら変わりありませんわね」 |
| “老范，你是不常来，我每个星期至少要有两次，不，两顿，非在鸿宾这儿吃饭不可，所以我同这位郑老弟早就见过。”直到这时，他才想起刚才同郑君才在谈学校来，怎么七扯八扯到吃饭上去了。于是他用拳头连声敲了两下桌子，眨眨两下眼皮，又继续了刚才的谈话： | ///「范君、きみはめつたに來ないが、わたしは少なくとも週に二日は、いや二回は、王君のところで食事をしないと納まらないんだ。だから、わたしはこの鄭君とは、まえから知りあひなんだ」+++そままでいうと、かれはいましたが鄭君才と学校の話をしていたのに、いつのまにか、話が食事のほうにそれてしまつたのに気がついた。そこで、げんこつで食卓をたたくと、目をしばたいて、話をさききの学校の件に戻した。 |
| ///……这，正如老百姓所说，人是官的，肚子不是官的，它一日三餐绝不留情。于是只好当当、借帐、求亲告友，日坐愁城。吃了这顿，有时要愁那一顿。可是说起来怪好笑，既然是教授嘛，还要维持教授的门面。 | ///……われわれはまさに、庶民がいうように、人間は役職につけるが、腹は役職だけでいっぱいにはならぬ、一日三食くわねば、情けようしなくすいてくるというわけで、しかたなく質屋のれんをぐつたり、掛けで物を買つたり、親友の袖にすがつたり、一日として心の休まる時がない。ところが、いわばこっけいな話だが、教授であるからには、それなりの体面を保たねばならぬ。 |
| ///他再不能把她当做自己的学生滔滔地向她讲些空泛的大道理，而是应当像对一个好朋友那样尊敬了。于是，他沉默了一下，笑道：“好，小林，你留在北平也好。我们大约再过十天就要动身了。我希望将来能在那伟大的地方再见到你！” | ///もう二度とふたたび、かの女をじぶんの学生と見なして、どうとうと中味の無い大道理を、のべることはできなかつた。ひとりのすぐれた同志として、尊敬すべきだった。そこでかれは、しばらく沈黙したのちに、笑いながらいった。+++「わかつたよ、林君。きみが北平に残るのいいことだ。ぼくたちは多分、あと十日ほどしたら出発する。将来、あの偉大な土地できみと再会できることを、心から願つているよ」 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|---|
| 道静用心听着江华的话, 同时也在玩味他的话。这时, 她才深切地感到自己是太幼稚、太缺乏经验了。同时, 一定要锻炼自己做好学生工作的决心也明确起来了。这时, 她的心情稍稍好了一些, 于是接着问江华: “那, 我们对王晓燕究竟采取什么态度才对呢?” | 道静は心をこめて、江華の話に耳をかたむけ、同時に、そのことばの意味をかみしめていた。このときになって、はじめてかの女は、じぶんがあまりにも幼稚で、あまりにも経験に乏しいことを、しみじみと感じたのだ。同時に、かならずじぶんをきたえて、りっぱに学生運動を、組織しようという決意も、心の中でははっきりしてきた。そうすると、かの女の気持も、少しはあかるくなってきて、積極的に江華に質問した。+++「それでは、王曉燕には、どんな態度をとったらいいかしら?」 |
| 警察还在恭敬地肃立着。这时, 却又临时增加了一队灰衣的宪兵掺在警察当中来警卫。于是火车站更加显得威严、肃穆——俨然是皇帝驾到般的气魄。 | 警官は直立不動の姿勢をとった。そのとき、臨時に増加された灰色の制服の憲兵の一隊が、警官の隊列に加わって、警備にあたりはじめた。こうなると駅の構内の空気は、いっそういかめしさを加え、静肅さを増し——まるで皇帝のお召列車でも、到着したようなふん囲気になってきた。 |
| ///为了麻痹敌人, 或者还可以从王忠那儿得到些消息, 侯瑞就叫吴禹平去和王忠稍稍接近一下。于是有一天, 吴禹平就带着那位女老乡一同和王忠吃了一顿饭。 | ///敵に油断させるためと、王忠からニュースをさぐるために、侯瑞は呉禹平に、少し王忠に接近してみるようにと促した。そこである日、呉禹平は、同郷人のその女子学生をさそって、王忠と一緒に食事をした。 |
| ///说到这里, 她喘了一口气, 发觉自己太兴奋了。有点奇怪, 为什么一见这个高大的沉稳而温厚的同志, 她就变成了一个热情洋溢的小孩子似的呢? 为什么对他说话总和对别人说话不一样呢? 想到这里她有点不好意思了。于是竭力使自己冷静下来, 并且把声音慢慢放低: | ///ここまで話すと、道静はひと息いれたが、じぶんが、あまりにも有頂天になっていることに、はじめて気がついた。どうしてなのだろう、このたくましい、沈着で温厚な同志の顔をひと目見るなり、どうしてじぶんは、熱情あふれる活発な子どものように、変ってしまうのだろうか? どうして、かれと話すときには、ほかの同志と話すときは、違ってしまうのだろうか? そう考えてくると、道静はいさかかきまがりが悪くなってきた。それで懸命にじぶんをおちつかせ、声もつとめて低くした。 |
| ///可是现在他不应当再等待了, 不应当再叫自己苦恼、再叫他心爱的人苦恼了。于是他抬起头来, 轻轻地握住站在他身边的道静的手, 竭力克制住身上的战栗, 率直地低声说: | ///だが、いまでは、もうこれ以上まつべきではなかった、これ以上じぶんを苦しめ、愛する人を苦しめてはならないのだ。かれは顔をあげ、そっとそばに立っている道静の手を握り、必死に全身のふるえをおさえながら、率直にじぶんの思いをうちあげた、低い小さな声で。 |
| ///天快亮的时候, 一辆辆的囚车随着又一批荷枪实弹的军警继续开来, 于是由学校当局向导, 由宪兵拿着用“东北大学公用笺”开好的名单, 开始在全校各个宿舍各个角落搜查起来。 | ///夜明け近く、おびただしい数の護送車が、実弾をこめた銃を手にした軍警と共に、またもやたてつけにやってきました。学校当局の案内によって、憲兵たちは「東北大学公用便箋」に書かれたリストを手に、全校の各学生寮の隅ずみまで捜査をはじめた。 |
| 蒋梦麟校长眼看北大学生罢课将近一周还没有复课的意思, 于是, 多方活动、设法, 要召集全体学生开一次大会, 劝学生们复课。还不错, 他的召集开会的愿望倒是达到了。 | ///蔣夢麟学長は、北大学の学生のストライキが、一週間近くつづき、まだやみそうにもないのを見て、あちこち動きまわり、いろんな手をうち、全学生を召集して集会をもち、スト打ちりを勧告しようと思った。 |
| “一二九”之后的一星期内, 党紧密地团结了各个学校涌现出来的大批积极分子, 广大爱国青年也纷纷奔到民族解放的战场上来。于是党的力量, 人民的力量突然扩大了, 迅速发展了。 | ///「一二・九」後の一週間のあいだに、党は各学園にあらわれた、大量の積極分子をしっかりと團結させた。広はんな愛国青年も、ぞくぞくと、民族解放の戦線に結集してきた。党の力、人民の力は、急激にひろがり、すみやかに発展した。 |
| ///为了继续扩大“一二九”的成果, 为了发动更多的群众涌向正义的爱国之路, 为了反对出卖华北的冀察政委会的成立, 十二月十五日的夜晚, 党领导学联的负责人在长安饭店开了一间房间, 一桌麻将牌打了一阵, 于是一切计划筹划定了, 决定在第二天——十二月十六日仍“冀察政務委员会”正式成立的日子, 再一次号召全市的大中学校来一次规模更大的示威游行。 | ///「一二・九」の成果をひきつづき拡大し、より多くの民衆を、国を愛する正義の道に導き、華北を敵に売りわたす冀察政務委員会の成立に反対するため、十二月十五日の夜に、党の学連指導の責任者たちは、長安飯店の一室で、マージャン卓を囲みながら、すべての準備と計画を相談しあい、翌日——十二月十六日、「冀察政務委員会」が正式に発足する日に、全市の大、中学校に呼びかけて、もう一度、より大規模なデモ行進を、敢行することになった。 |
| ///但是经过“一二九”血的感染, 经过党及时、有力的宣传、教育工作, 人们反而认识了统治者的丑恶嘴脸, 于是青年们迅速地行动起来, 北大学生仅仅经过几小时的布置与动员, 就几乎达到了全体总动员。 | ///「一二・九」の血の恨みと、党の敏感適切な、力強い宣伝は、あべこべに人びとに、支配階級の醜悪な本質を見きわめさせ、青年たちは、迅速に行動を開始し、北大学の学生たちは、わずか数時間の準備と動員で、ほとんど全体に近い数の学生を、総動員することに成功したのである。 |
| 这时在不断被冲散的北大队伍中, 有一部分人已经失掉了联系, 王晓燕、李槐英全不见了。交通队忙着联系, 纠察队忙着整理队伍。于是时间不大, 零乱的队伍又列成了整齐的行列。 | このときには、たえまなく襲われ、分断されている北大的隊伍は、すでに一部の者の連絡がとぎれていた。王曉燕、李槐英のすがたは、何処にも見あたらなかった。レボ隊は連絡に走りまわり、防衛隊は隊伍の整理に奔走し、まもなく、ばらばらになった人びとは、ふたたび整然とした隊列に戻れた。 |
| “不要怕! 不要动!” 侯瑞和道静迅速得到交通队传来的指挥部的命令。命令像电一样快地传到了各个核心、各个游行群众当中去。于是几万人的队伍就在枪声中, 像巨大的山峰般屹立在冬日的斜阳下。 | 「恐るな! その場を動くな!」+++侯瑞と道静は、レボ隊が伝えてきた指揮部の命令を、迅速にキヤッチすることができた。命令は電光のよう早さで、それぞれの中核に伝えられ、デモ群衆のあいだにひろまった。このため、数万の隊伍は、銃声の中で、あたかも巨大な山峰のように、冬の斜陽を浴びながら、屹然として微動だにしないままだった。 |
| ///城门终于被人的海洋冲破了——敌人不得不在狂怒的人群面前打开了城门。于是浩浩荡荡的队伍又继续前进。 | ///この人海の怒涛の襲撃に、城門はついに突き破られ——敵はこの怒り狂った人びとの目のまえて、扉をひらかざるをえなかった。こうしてデモの隊伍は、堂々と、意気たからかに、ひきつづき前進していったのである。 |
| 棋王 (原文) | チャンピオン(棋王) (訳文) |
| 家具上都有机关的铝牌编号, 于是统统收走, 倒也名正言顺。 | 家具にはみな勤務先のアルミニウムの番号札がついていたので、当然のことだが、ひとつ残らず持ち去られた。 |
| 只是没人来送, 就有些不耐烦, 于是先钻进车厢, 想找个地方坐下, 任凭站台上千万人话别。 | 見送り人もないのに早くきすぎてしまったので、ホームで別れを惜んでいる人びとをよそに、座席をみつけようとさっさと列車に乗り込んだ。 |
| 我的座位恰与他在一个格儿里, 是斜对面儿, 于是就坐下了, 也把手拢在袖里。 | ぼくの席はちょうど彼の斜向かいにあたっていたので、そこに腰をおろすと、同じく手先を袖に突っこんだ。 |
| 大约是我脸上有种表情, 他于是不知怎么办才好。 | 多分ぼくの顔色に気がついたのでだろう、彼は弱りきったようすでもじもじしていた。 |
| 大家就议论可能是这个人来找小毛, 于是满山喊小毛, 说她的汉子来了。 | 小毛を訪ねてきたに違いなからうということになって、みなで「いい人がきたぞ」と、小毛を呼んだ。 |
| 我这时正代理一个管三四个人的小组长, 于是对大家说: “散了, 不干了。大家也别回去, 帮我看看山上可有什么吃的弄点儿。…” | ぼくは、たまたま三、四人ひと組の班長代理をやっていたので、班の連中に言った。+++「今日は解散だ。でもすぐには帰らずに、時間まで山でなにか口にはいる物を探してくれないか。…」 |
| 下着下着就熟了。于是又到街上和别人下。 | 何度もやるうち馴れてきたので、街に出てやってみた。 |
| 倪斌不好意思地说他可以住在书记家。于是大家一起随王一生去找住的地方。 | 倪斌は言いくさそうに「自分は書記の家に泊めてもらえる」と言った。そこで、みんは王一生の案内で、今後の泊まり場所へ行ってみた。 |
| 。我出去统计了, 连冠军在内, 对手共是十人。脚卵说: “十人是满数, 不吉利的, 九个人好了。”于是就九个人。 | 外に出て数えてみると、チャンピオンをふくめて、相手は十人になっていた。すると、のつぼが、「十人というのは満数が不吉だ、九人がいい」+++と言うので、九人にした。 |
| 。墙外一副明棋不够用, 于是有人拿来八张整开白纸, 很快地画了格儿。 | 場外では展示用の大型の将棋盤一枚では足りないので、誰かが全紙大の紙を八枚もってきてすばやく線を引いた。 |
| 人到中年 (原文) | 北京的女医 (訳文) |
| 张老汉可不象一般病人那么默默地听着, 他觉得大夫跟你说话, 你不吭气儿是不礼貌的。于是, 他十分通情达理地答道: | 張爺さんは一般の患者のように黙って聞いていられない。医師が何か言えば、黙っているのは失礼だと思っている。だから、彼は何かかも心得たとでもいうように、 |
| 霜叶红似二月花 (原文) | 霜葉紅似二月花 (訳文) |
| ///不过, 也觉得再在旧题目上斗个唇舌舌是没有意思了, 而且, 大概也想到“不理睬”倒是对于像这种人的最大的侮辱, 于是由冯梅生再开口, 找些不相干的事随便谈着, 打算把空气弄得热闹起来。 | ///しかし、いまさら先程の問題をむしかえて口論する気もなかったし、また、「黙殺」することがこういう手合に対する最大の侮辱であることに気がついたからか、馮梅生が当りさわりのない話を持ち出して、その場の空気を盛り上げようとした。 |
| 趁这机会, 阿寿挪前一步说道: “少奶奶, 今天买菜的账, 报一报……” 看见婉小姐微微一颌首, 于是阿寿便按照每天的老例, 从口袋里摸出一张字条来, 一边看, 一边念着。 | その折を待っていたように、阿寿が一步前に出た。+++「奥さま。きょうの台所の勘定を申し上げます……」+++婉卿がかすかにうなずいたのを見て、阿寿は毎日するようにかくしから書きつけを取り出し、ひとつひとつ読み上げた。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|---|
| <p>“这个破园子是爸爸手里买进来的，”有容只顾向静英说，“可是他不修。我和二哥打算把那边的树根弄掉，开个网球场玩玩，爸爸又不答应。”于是又转脸对他哥哥道，“密司许称赞这破园子，说局面是好的，只要稍稍修理一下，便很行了。二哥，你再问她罢，她说得头头是道的！”</p> | <p>「このさびれた庭は、お父さまが買ったのよ」有容は民治にはかまわずにいった。「それなのにこのとおり放りっぱなしでしょ。それで、あなたと兄さんは、あそこを切り株を掘りおこしてテニスコートにしようと思ったのだけど、お父さまきたらそれもダメだっていうのよ」そして、彼女は兄の方にいかけた。「兄さん、ミス許はね、ここがとても気に入って、もともとよくできている庭だから、少し手入れをすれば立派なものになるというのよ。兄さんも聞いてごらんさいな。なるほどそのとおりだから」</p> |
| <p>///然而当他们听苏世荣说“少爷快要发脾气”，钱永顺又开导他们：“少爷见多识广，他要这么办，一定错不了；再说，少爷一点私心也没有，全是为了大家。”于是农民们也就无话可说，静候苏世荣和钱永顺的调度了。</p> | <p>///しかし蘇世榮から、「若旦那に叱られてもいいのか」といわれ、錢永順からも、「若旦那はなんでもよく知っているのだから、いわれたとおりにしておけば間違いはない。それに若旦那にはこれっぽっちの私心もない。心からみんなのたを考えているのだ」とさとされて、返すこともなく、蘇世榮と錢永順の指図におとなしく従った。</p> |
| <p>///陈贵也不敢带她出去，她于是睁大了她那对乌溜溜的小眼睛哀求似的瞧着每一个进进出出的男女仆人，自言自语道：这无聊的举动，立刻被摹仿着，淘气的孩子们随便抓些泥块石子，向远远的轮船投掷。可是船已去远了，卜东卜东溅起来的河水反把这群小英雄们的衣服弄湿。祝大的孩子小老虎也是个不甘寂寞的，双手捧起比他的头还要大些的泥块，往河里扔；不料这泥块也很倔强，未到水边就自己往下掉，殃及了另外几个小孩。于是欢笑和吵闹的声浪就乱作了一团。</p> | <p>///しかし、陳貴にも振られて、彼女はまっ黒なかわいらしい目をみはり、出入りする下男や女中たちに哀願するような眼差しを送りながら、つぶやきつづけた。この無意味な仕草はたちまち共鳴をよび、いたずらな子供が手に手に石ころや土くれをひろって、はるかかなたの汽船に投げつけた。しかし、船にとどくはずはなく、ボトンボトンとはねかえった水が、この小英雄たちの着物を濡らしただけである。祝大の息子小老虎もそのひとりで、自分の頭よりも大きい泥のかたまりを抱えあげると、河へ投げた。ところが、この泥のかたまりがまた強情なやつで、河まで行かずに勝手に下に落ち、まわりの子供たちにまで泥水をねあがせた。笑声とわめき声がドツとあがった。</p> |
| <p>小鮑庄 (原文)</p> | <p>小鮑庄 (訳文)</p> |
| <p>比如：这位祖先是太禹的后代，于是，一整个鲍家都成了太禹的后人。又比如：这位祖先虽是太禹的后代，却不得太禹之精神——娶妻三天便出门治水，后来三次经过家门却不进家。</p> | <p>たとえば、この先祖は禹王の子孫だ、だから鮑家一族はみな禹王の末裔なのだとか、また、先祖は禹王の子孫には違いないが、禹王には遠く及ばない——禹王は妻をめぐって三日後に治水に出かけ、その後三度家の前を通りながら立ち寄りなかった。</p> |
| <p>鲍山那边，有个小冯庄。庄上有个大闺女，叫小慧子。一九〇〇年，跟着她大往北边要饭，一去去了二三年。回来时，她大没了，却多了个二岁的小小子，说是路边上拾来的。她就叫他拾来，他就叫她大姑。于是，渐渐的，一庄子里人都改口叫大姑了。</p> | <p>鮑山の向こう側に小馮庄という村があった。そこに小慧子という年頃の娘がいた。一九〇〇年、父親について北へ乞食しに出かけたまま、二、三年戻らなかった。帰ってきたとき、父親は亡くなったが、二歳の男の子が一緒だった。道端で拾ってきたのだという。彼女は、その子を拾来と呼び、その子は彼女を大姑と呼んだ。そこで村人たちがやがて彼女を大姑と呼ぶようになった。</p> |
| <p>拾来阴沉沉地地看着他，然后一声不响地走了。于是，人们更加觉着这一大一小共同保守着一个什么秘密。</p> | <p>拾来は暗い顔で相手を見つめ、口もきかずに行ってしまった。ふたりして何か秘密を隠しているのではないかと、人びとはますます疑った。</p> |
| <p>///鲍五爷脾气倔，见不得自己成了大伙的累赘，总到队里争活几千。队里便给了他些烂草绳头，让他搓绳。于是，他每日里就坐在磨房的墙根下，晒着太阳搓绳。</p> | <p>///鮑五爺は負けず嫌いで、自分がみんなのお荷物になるのは面目ないと、しょつちゅう生産隊に出かけて仕事をせがんだ。隊ではくす藁や縄のはしきれを渡して、縄をなわせることにした。こうして彼は毎日粉ひき小屋の壁際に座って、日向ぼっこしながら縄をなうようになった。</p> |
| <p>原来这位王科长只是个干事，“科长”不过叫听听而已。等找着了张科长，真相才大白。是有这么会事，曾经是要来个作家。可是后来不来了。也许是这里治水的事情不够典型吧，犯不着曲里拐弯地到此地来。于是，便不来了。</p> | <p>この王科長は実はひらの職員で、「科長」と呼ばれているだけだった。張科長に会って、やっとなりの次第がはっきりした。というのは、作家を招くことになってはいたが、後で中止になった。多分この治水の状況がそれほど典型とはいえないかったのか、わざわざ出向くまでもない、ということでも中止になったらしい。</p> |
| <p>拾来虽说是个插撞门的，毕竟也是个男人，也有脾气，发作起来也是不得了的，于是就耍闹。</p> | <p>拾来は入り婿ではあっても、やはり男だから、癪癪を起すこともある。腹を立てればおさまりがたらず、そこで喧嘩がはじまる。</p> |
| <p>捞渣死后，文化子叫他娘数落得够呛。样样事情，他娘都要拿捞渣来对照他。而他自己也奇怪起来，怎么相对着自己每一处缺点，捞渣都有一处优点。而他的缺点又那么多，一动手就露出了马脚。于是，便不时提醒起他娘对捞渣的怀念，数落之后便是哭，哭起来就没个完了。</p> | <p>捞渣が死んでから、文化子に対する母親の風当たりが強くなった。何から何まで、捞渣をひきあいに出して比較された。彼は自分でも不思議な気がした。どう比べても、自分の欠点がどれも捞渣の長所に当てはまるのだ。しかも欠点が多いので、ことごとくばらが出た。そこで、たえず母親に捞渣のことを思い出させる結果となった。小言を言っては泣き、泣きだせばきりがなかった。</p> |
| <p>领导上要他们好好地抓一个典型，以配合五讲四美的宣传。于是他们又想起了这篇报告文学，重新找出来看了一下，传阅了一下，都觉得事迹是可以的。</p> | <p>上から、模範的な実例をとりあげて「五講四美」の宣伝に呼応させるよう指示が出たところで、彼らはこの報告文学のことを思い出した。あらためて探して読みなおし、回覧した結果、この事例は適切だと思われた。</p> |
| <p>骆驼祥子 (原文)</p> | <p>骆驼祥子 (訳文)</p> |
| <p>是呀，这是真的，他的车哪里去了？大家开始思索。但是替别人忧虑总不如替人家喜欢，大家于是忘记了祥子的车，而去想着他的好运气。</p> | <p>それはそうだ。やつの車はどうしちまったんだろう？みんなも首をひねるのだったが、人の不幸を苦にするよりも人の仕合せをよるこんでやっているほうが気楽にきまっている。すぐにみんなは祥子の車のことなど忘れ、うまいことをやったことばかり考えてしまうのであった。</p> |
| <p>个别的解决，祥子没那么聪明。全盘的清算，他没那个魄力。于是，一点儿办法没有，整天围着满肚子委屈。</p> | <p>祥子には、ひとつひとつ解決してゆくほどの才覚はなかったし、一挙に片づけてしまう勇気も、なく、とどのつまりは、打つ手もないままに、まる一日、悶々と悩みつづけた。</p> |
| <p>二强子四十多了，打算不再去拉车。于是买了副管子，弄了个杂货挑子，瓜果梨桃，花生烟卷，货很齐全。</p> | <p>二強子は四十五、六になっていたたので、車引き稼業から足を洗って、雜貨の行商をやることにした。</p> |
| <p>钟鼓楼 (原文)</p> | <p>鐘鼓樓 (訳文)</p> |
| <p>她觉得一切都失去了意义，失去了希望，于是，有一天她趁着看守打盹，把看守拿来搁在躺椅下的小半瓶“敌敌畏”喝了下去……她没能死成，她经历了昏迷、呆滞、麻木、消沉、痛苦、绝望……又渐渐回转为冷静、认命、无求、开通、企望……</p> | <p>希望も何もない。ある日のこと、また吊るしあげられることになり、会場へ運ばれていく途中だった。彼女はいきなり窓際走りよると、そこからひと思いに飛びおれた。そこは三階で、あまり高くなかった。結局、自殺未遂に終わったが、足の骨を折り、強度の脳震盪になった。昏睡から醒めたあとに、放心状態、無感覚状態がつづき、さらに落胆、苦痛、絶望をへて、だんだんと冷静さをとりもどした。運命に甘んじ、何も求めず、悟りをえたかのようなだった。それからある種の期待をもちはじめた……。</p> |
| <p>///他发现这里一切似乎都没有变化，门洞里依旧挂着那一对旧藤椅，院中樗树（臭椿）上的蝉鸣还是那么一种声调，公共自来水管水击桶底的声音也还是那么■琮有韵……可是毕竟也有比较显著的变化，原来里院北房换了一家姓张的来往，据说是位局长，有好几大橱的书，其中还有不少英文书。于是他便在等待分配具体工作的那段时间里，跑去借书看……</p> | <p>///庭で何が行く前と変わらなかった。表門の天井には例の藤椅子が吊るさされている。庭のニワウルシの樹の蝉の鳴き声も、いつもの調子である。共同の流して、水がバケツの底に勢いよく当たる音も、昔どおり快く聞こえる……。しかし大きな変化もあった。もと中院の母屋に住んでいた一家が引っ越し、張家が移って来たという。局長で、大きな本棚がいくつもあり、本がぎっしりつまっていた、英文書もたくさんあるという。彼は就職先が決まるまでのあいだ、よくそこへ本を借りに行った。</p> |
| <p>“反右”运动起来了。她难免有些按当时的标准衡量算是错误的言论，这些言论属于可划“右派”可不划“右派”之列，在测定她是否属于“右派分子”的天平上，如果根据她出身不算坏和她工作中表现尚属努力，撤下一个砝码，她便偏到了“不划”一边，但最后却因为她上述的性格弱点在人们心目中形成的恶感，反给她加上了一个砝码，于是她便偏到了“应划”一边。</p> | <p>まもなく「反右派」運動がはじまった。そのころのものさしではかれば、彼女にも、間違っている言論が少しはあった。そうした言論は、「右派」に入れても入れなくてもいい程度のもだった。彼女が「右派分子」かどうかを天秤ではかるどき、出身も仕事ぶりもまずまずなので、錘り一つははずすこともできた。それだと「右派」にならなくてすむ。しかし、結局は前にのべたような性格上の欠陥から、彼女はみんなによく思われず、逆に錘り一つ余計にくっつけられてしまい、とうとう「右派」にされてしまったのだ。</p> |
| <p>婚宴可以从简，迎娶仪式却万不能马虎。于是薛家尽其所有，从轿行租了一套轿子。</p> | <p>披露宴はそれでいいとしても、花嫁を迎える儀式になると、そうはいかなかった。そこで薛家でいろいろ金をはたいて、かご屋にかご一式を申し入れた。</p> |
| <p>他们的学习方式是充满了戏谑的，比如荀磊问：“西班牙人怎么称呼月亮和星星？”冯婉妮告诉他了，他熟记几遍后，冯婉妮便反问他：“英国人怎么称呼枫树和红叶呢？”他回答了，冯婉妮也熟记了几遍，于是双方开始造句。荀磊用西班牙语说：“我爱月亮、星星，不爱你。”冯婉妮便紧接着用英语说：“我爱枫树上的红叶，讨厌你。”</p> | <p>習うというよりもふざけながら習うのである。たとえば荀磊が「スペイン人は月と星のことを何というの」と聞くと、彼女がそれを教える。荀磊がそれを何回か暗記すると、今度は彼女が、「じゃ、イギリス人は楓の木と紅葉のことを何て言うの」と聞きかえす。荀磊が教えると、彼女もそれを何度か暗記する。そこで例句を作りはじめる。荀磊がまずスペイン語で言う。+++「ぼくは月と星が好きだ。君は好きでない」+++つづいて彼女が英語で言う。+++「わたしは楓の木と紅葉が好き。あなたは嫌い」</p> |
| <p>双方语法上自然都有错误，于是互相激烈地指责，其间荀磊会用英语咕哝一句，冯婉妮便会追问他究竟何意。</p> | <p>文法上の誤りが出てくると互いにけなしあう。やりあっているときに、荀磊が思わず英語で何かをぼやく。聞きとがめた彼女がその意味を問いつめる。</p> |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|---|--|
| 他们当然谁也没有死。他们活得有滋有味。终于有一天，他们理智起来了，认识到爱情的归宿必然是一个由他们两人组成的家庭，而这个家庭又必然要同他们各自已有的家庭相联系，于是他们这才开始介绍自己和询问对方的家庭情况。 | もちろん誰も死にはしない。彼らは生きることに限りない喜びを覚えている。とある日、二人とも理性的になった。愛のおちつく先は家庭をもつことに気がついた。そしてこの家庭は、いまのそれぞれの家庭と結びついている。そのときになってはじめて、二人は自分の家のことを話したり、相手の家のことを尋ねたりした。 |
| 冯婉珠一看荀磊眼神，就明白他并不是开玩笑。于是她收敛了笑容，把靠在他肩膀上的脑袋调整得更舒适，闭上眼睛说：“你爱我吗？把他的情况细说说吧！”他们都不知该如何向对方表达出自己内心的情谊，于是在谈到双方妻子都有着身孕一事时，几乎是不约而同地说：“要是是一个小子，一个闺女，长大了就让他们成亲！” | 彼女は荀磊の目の中をじつとのぞきこんだ。冗談じゃない、ということがわかった。彼女は笑うのをやめ、二人はそうした心の底からの友情をどう表現していいかわからなかった。ちょうど二人の妻とも身ごもっていたことから、固い約束をかわした。生まれてくる子供が、男の子と女の子であれば、将来大きくなったときに二人を結婚させよう、と。 |
| 录音机是新的，录音带也是新的。这盘新带子是朱逢博的独唱曲，带电子琴的小乐队伴奏。薛纪跃自己也说不清，他为什么此刻不能耐心地把每一首歌听完。他已经好几次中途把停止键按下，又快进键让带子转到下首歌，可是当那首歌从某一音符突然响起时，他又不能容忍开头的不完整，于是便又按停止键，又进行短暂的快退，往往退又退得多了，使他更加烦躁……朱逢博被他折腾得总那么颠三倒四地忽而尖啸而出，忽而戛然而止，难怪本打算在这一天里容忍薛纪跃一切的薛大娘，也禁不住当面抱怨起来。 | テープレコーダーは新しく、テープも新しい。いま聴いていたのは、エレクトーン伴奏の朱逢博の独唱曲である。なぜ辛抱よく最後まで聴くことできないのか、彼にもわからなかった。もう何度も、途中でストップを押し、早速りで次の曲までまわしたのだが、それがあつた音符から突然歌われたすと、また出だしの不完全さにたえられずストップを押してしまふ。そしてしばらく巻きもどすのだが、たいていもどしすぎ。そこでまたイライラ……するわけだ。朱逢博こそ、とんだ災難で、後から前へと歌うかと思うと、急にストップしたり、急にかん高い声をあげたりする。今日一日は、紀躍に小言を言うまいと思っていたおばさんも |
| 当然，许许多多的人最后都无师自通，从必然王国进入自由王国了，不过也有一些人在摸索中受挫，形成心理障碍，又找不到办法排除，于是便会陷于深深的苦闷与惶惑。 | もちろん多くの人、教える人がいなくてもその道に通じるようになる。だが中には模索の過程で挫折したことからの心理的障碍をきたし、それを取り除く方法が見つからないうま、ひどく懊悩し、恐怖を感じている者すらいるのだ。 |
| 结果却使得队里干部对她极度反感，于是专派她去干那最脏最苦最累、而且往往是妇女不适于干的活。//她从三楼往一楼逛，她想起了娘告诉她的话：“你荀大爷喜欢喝酒，你荀大妈最喜欢吃甜的。”于是她在一楼买了四瓶最贵的白酒，想方设法把它们塞在了旅行袋的边上，又去买了三个装在漂亮的盒子里的花蛋糕。 | //そのため彼女は生産大隊の幹部の反感を買った。一番汚くて疲れる重労働がいつも彼女に順に降られた。//三階から順に降りながら、ふと、“伯父さんは辛党で、伯母さんは甘党だよ”といった母の言葉を思い出した。そこで一階でいちばん上等な酒を四本買い、やつの思いでそれをポストンバッグの片隅に押しこんだ。それからきれいな箱に入ったデコレーションケーキを三箱買った。 |
| 七姑把詹丽颖伸出的手给挡了回去。他意识到自己今天的责任格外重大。这位“詹姨”竟如此无礼！什么“死胡同”、“拐磨”——多不吉利的言辞！再说，迎亲的“小轿子”不开到门口，那怎么办？于是，她脸上现出极其严肃的表情，语气坚决地说 | 七叔母がその手をさえぎった。今日はことのほか責任重大だときき感じた。まあ、なんでも失礼な。“ゆきどまり”だの、“さらう”だのって、縁起でもない。それに新婦を迎えに来た車が門口まで来ないなんて、絶対に許せない。そこで改まった顔で、びしっと止めをさした。 |
| 新娘子到了，亲友们也差不多到齐了，于是新房中的那张折叠桌便被抬至了中央，并且张开了翅膀（从方变圆），准备着承载第一次光荣的负荷。七姑心里很不痛快。她想这节骨眼上，非给薛家指明礼数不可——直接责怪他们亲热“詹姨”不利，她放眼一望，恰有一个老大的题目好作文章，于是便咳嗽嗓子，故作惊讶地扬声说： | 花嫁が到着した。客もほとんどそろった。そこで新婚夫婦の部屋にある例の折り畳み式のテーブルが真ん中に運ばれた。晴れのお役目というところだ。七叔母はすこぶるご機嫌斜めだった。薛家が礼儀作法を心得ていないことを、このさい指摘しておかなくとも思った。といつても、詹麗穎と親しすぎる、とは言えない。ふと顔を上げると、ちょうど恰好の材料が目についた。そこで咳払いし、わざと驚いたような声をあげた。 |
| 王经理只觉得他活象马戏团的小丑，不过主客双方都已举杯互敬几巡，似乎也没有再多的话好说，喝闷酒到底无聊，于是便点头应允。 | 王店長は内心、サーカスのピエロのような奴だ、と見ていたが、みんなともう何度も祝杯を交わしており、これ以上話すようなこともないので、黙って酒を飲むよりは、とうなずいた。 |
| 于大夫冷笑了。来找老张的人，每一个照例都说自己有要紧的事，她见得多了，其实，有的不过是为了一些鸡毛蒜皮的事情，还有的来谈什么“第三者介入”问题、离婚问题……往往把老张弄得精疲力竭而毫无收益。眼前的这位为何而来？看样子，所谓“很要紧”的事情，无非是职称问题、工资问题、调动问题……于是她淡淡地说：“老张一会儿就出发了。你有什么要紧的事，跟别的局领导说吧。” | 于謙は薄笑いを浮かべていた。うちの人に会いに来る人は、みんな大事な用事があるというわ。でもわかったもんじゃない。くだらないことで来る者もいるわ、三角関係とか、離婚とか。うちの人はその対応にすっかりたびれるし、それでいて役に立たないこともあるのよ。この人はなんの用で来たんだろう。見たところ、“大事な”といつても、せいぜい肩書きとか、給与とか、転勤とかいったことに決まってるわ。そこで無表情に答えた。+++“あの人、すぐに出発するんですよ。大事なご用でしたら、局のほかの指導者と話したらいいか？” |
| 但全院除了收房租水电费而来他们家串过门的，似乎仅有詹丽颖一人。于是，当年轻人还在发泄他的不满时，葛萍便溜出了屋子，去找詹丽颖，求她想办法把那年轻人打发掉。 | だが、四合院に住む人で、家賃や光熱費、水道費などの集金以外に、この家をたずねたことがあるのは詹麗穎だけである。そこで若者が不平不満を並べていたとき、彼女はこっそり家を脱けだして詹麗穎のドアをたたき、事情を話したうえで、なんとかならないものだろうか、と相談した。 |
| 年轻人被詹丽颖的气派镇住了。他也搞不清她是什么人，见她那阵式，只感到恐慌。于是他便主动把所有诗稿都放回他那只旅行包，拉上拉锁，气急败坏地说：“我走我走。我现在总算知道北京，知道诗坛，知道所谓的‘淘金者’是什么玩意了！”他一跺脚，很快地出了屋，并且出了院。 | 若者は詹麗穎の出入りに気をなされたらしい。相手が誰なのか見当がつかないし、その剣幕に縮みあがったとみえる。急いで原稿をポストンバッグに押しこみ、ファスナーをひっぱりながら、怒鳴っていた。+++“ああ、出ていけよ。北京がどういうところか、いまやつとわかったよ。くそ。何が‘詩壇’だ。何が‘金を探す’だ！くそくらえ！”+++思いきり足で地をけって、出ていった。 |
| 张奇林见傅善读来了，心里安定下来。一个半小时里，足能办完登机的一切事宜。由于整个身心的陡然松弛，他忽然感到要小解一次。于是他对傅善读说：“你来了就好，稍安勿躁，我方便一下再走。” | 傅善読が来たので、張奇林も胸をなでおろした。一時間半あるから、まあ大丈夫だ。ホッとしたりとたん、急に尿意を催した。“来てくれたのでひと安心だ。ちょっと待ってられないか。便所に行ってくる” |
| //那年夏天他天天去轿行等候，天天落空，也不知怎么搞的，那年夏天阔主儿们都不娶媳妇！于是他头一回跟着父辈去“荷花市场”搞“硬乞”。 | //その年も、毎日のようにかごかき屋に詣めて待ったが、なぜだかその夏に限って嫁とりの金持がいなく、すっかりあがってしまつた。そこでしかたなくはじめて先輩のこじきについて「蓮花市」で「硬乞」をやった。 |
| 海老太太退休以后，一个人生活十分寂寞，于是从娘家最小的亲弟弟那里，过继了海西宾为孙。 | おばあさんは定年退職したあと、一人暮らしがあまりにも寂しいので、末の弟のところから海西賓を孫にもらって自分の籍に入れた。 |
| //公园领导一时来不及处置海西宾。海西宾被推开以后，知道自己犯了错误，便走出了小卖部，可又不知该到哪儿去呆着，于是懵懵懂懂地站在一株松树下，下垂的两手勾在一起，凝固在了一个稍息的姿势上。因为它的位置处于僻静的小胡同之中，所以光顾的过客很少有偶然路过的生人，多是附近的居民或在附近上班的职工，售货员与游客大半相熟，游客之间也大半相熟，于是乎酒馆中常常充满了一种活泼而融洽的气氛。 | 責任者には海西賓の処分などまだ考えるゆとりがない。海西賓は押しのけられたあと、自分がミスをやったと知って、ふらふらと売店を出た。どこに行つていいかわからず、ある松の木の下でぼんやりと休めの姿勢で突ったつていた。この店はひっそりした路地の中にあるので、通りがりの客はめったになく、ほとんどが附近の住人か、あるいは近くで働いている職工連だ。だから店の者と客、あるいは客同士はたいてい顔なじみで、店の中はいつも明るく和やかだった。 |
| 一九七七年，他一首十二行的短诗终于经韩一潭力争在刊物上发表了出来。第一回见到自己的作品印成了铅字，那激动的心情真难以形容，他那灵感的闸门，在油墨的香味启动下猛地打开了，于是乎诗情如黄果树大瀑布般地奔泻不停，到一九七九年，他发表的短诗已达二十七首。进入一九八〇年后，他及时地意识到：凭着写诗闯入文坛远比凭着写小说闯入文坛费力而迟慢，于是他“试着写起小说来”，而在这一年里，他就发表出了他的第一个短篇小说。 | 一九七七年、わずかに十二行の短い詩が、韓一潭のねばりづよい力添えて、ようやく雑誌に発表された。自分の作品がはじめて活字になったときの興奮は形容しがたいものである。彼のインスピレーションの扉は、印刷のインクに刺激されたのか、急にほとばしりだし、詩情が泉のようにコンコンとわき出て、一九七九年ごろには、もう二十七首もの詩が発表された。一九八〇年ごろから、彼は、文壇に足をふみ入れるには、詩よりも小説のほうがずっと手っ取り早いといふに気がついた。そこで「試しに小説書きをはじめ」、その年にはもう短篇小说の第一作が発表された。 |
| 龙点睛于是挑逗性地反问道：“《湖畔奏鸣曲》都没看吗？《白比姆黑耳朵》呢？《秋天马拉松》呢？电影资料馆经常放嘛！老韩怎么就不把你带去看看吧？” | 「おやおや。まだ観てないんですか。『湖畔のソナタ』ですよ。じゃ『白比姆の黒い耳』は？『秋のマラソン』は？映画資料館でしょっちゅうやってるのに、ご主人は連れてってられないんですか」+++わざとからかうような口ぶりだった。 |
| 所以，要确定何谓一秒，必须另找更稳定的参数，于是近代的科学家们发现原子内部能跃迁所发射或吸收的电磁波频率极为稳定， | そのため一秒を規定するには、より安定したパラメーターを見つけなければならない。そこで現代の科学者たちは、原子のエネルギー準位が発射し吸収する電磁波周波数がきわめて安定していることを発見した。 |

| 中国語原文 | 日本語訳文 |
|--|---|
| <p>竜点睛从韩一潭家里拿到那份“留着究竟是个祸害”的诗稿，出得那个四合院以后，本是打算把诗稿带回家里再烧掉的，可是当他路过胡同口的那排浅绿色的垃圾桶时，他想：干脆就在这里撕成碎片，扔进垃圾桶算了，难道还会有人把它拣起来，拼接复原么？回家烧，妻子要问，还得费唇舌解释……于是，他便在那里撕将起来，谁知偏来了个老头——他不知道那是胡同里专门拾废纸的胡爷爷——一手拖着个小轱辘车，一手拿着根带“粘针”的竹棍，高声地对他说：“同志，您别撕，您就扔给我吧——”</p> | <p>///竜点睛は、「残しておくも災いのもと」になる詩の原稿を韓一潭のところからもらって、四合院を出たあと、家に帰って焼き捨てるつもりでいた。だが、胡同の入口に並んである緑色のごみ箱が目止ると、ここで細かく破り捨てようと思いついた。まさかその紙屑を拾いあげて、元どおりに復元する者はいまい。家で焼くと、女房がうるさく聞くので説明するのが面倒だ……。そこで彼は破りだした。そこへ一人のお爺さんがやってきた——胡同で肩担いをしてる胡おじいさんが彼は知らない——片手に小さな車を押しながら、もう片手には紙屑をひっかけるための、かぎ先のついた竹棒を持って、大声で叫んだ。+++「あ、それ破らないで、わしのここに投げ入れて下さらんか」</p> |
| <p>张秀藻原想矜持地同荀磊一点头，便庄重地朝前走去。但人家提出的这个要求，实在没有不予满足的道理。于是，她便伸出手腕，看着自己那块功能齐全的电子表，详尽地报告说：“一九八二年十二月十二日十六点五十八分三十四秒……”</p> | <p>張秀藻は彼に会釈した後は、そっけなくそのまま歩き出すつもりでいたが、そう聞かれると、答えないわけにもいかない。腕の多機能のクォーツを見ながら言った。「はい。十二月十二日十六時五十八分三十四秒です」</p> |